令和３年度　国土交通省補助事業

令和３年度

木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業

（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）

成果報告書



令和４年３月

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

目 次

1) 団体主導型による取組概要

①全国建設労働組合総連合 …… 1
②(一社) JBN・全国工務店協会 …… 7
③(一財) 住宅産業研修財団 …… 12
④(一社) 全国木造建設事業協会 …… 16
⑤(一社) 全国住宅産業地域活性化協議会 …… 19
⑥(一社) 全国古民家再生協会 …… 25
⑦(一社) 日本 CLT 協会 …… 30

2) 地域連携型による取組概要

①(一社) 北海道ビルダーズ協会 …… 39
②青森県優良住宅協会 …… 50
③(一社) 東北建設技能協会 …… 53
④日本の伝統的大工塾 …… 62
⑤(一社) 福島県工務店協会 …… 66
⑥(一社) 東京大工塾 …… 71
⑦(一社) にいがた木造建築協会 …… 76
⑧(一社) 石川県木造住宅協会 …… 81
⑨(一社) 富士山木造住宅協会 …… 84
⑩愛知県建設団体協議会 …… 89
⑪(一社) 宮崎県建築業協会 …… 93

3) 令和３年度実施概要

…… 96

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

建築大工の担い手確保・育成支援事業

令和４年３月８日

全国建設労働組合総連合

令和3年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**茨城県、東京都、神奈川県、愛知県、島根県、広島県、徳島県（長期訓練全7地域）**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：68名（男性66名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：68名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**4名**　30歳代：**12名** 20-24 歳：**29名**　40歳代：**7名** 25-29 歳：**16名**
座学・実技研修	座学	**87回（茨城：6回、東京：2回、神奈川4回、愛知17回、島根9回、広島46回、徳島3回）**
	実技	**114回（茨城：18回、東京：10回、神奈川8回、愛知8回、島根13回、広島48回、徳島9回）**
	計	**201回（茨城：24回、東京：12回、神奈川12回、愛知25回、島根22回、広島94回、徳島12回）**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○長期訓練では、技能者の処遇改善に向けてCCUSの技能者情報登録を促進するとともに、建築大工技能者能力評価基準において、レベル2以上の判定を受けられることを目標にしカリキュラムを設定した。
○座学では「現場マナー」「安全衛生教育」など基本的なことを中心に設定しながら、「木造軸組み住宅概論」「JW-CAD」「設備機器との関係」などより専門的な内容を学んだ。CCUS制度についての講習も一部取り組んだ。
○実技では、「継手の加工」「規矩術講習」など基本的な技術習得を中心に繰り返しつつ、「住宅点検」「和室造作実技」「建て方実習」など実践的な内容を盛り込んだ。
○左に記載の集合訓練を主体に、補完的役割として分散訓練(OJT)を53名を対象に1855時間実施。
○長期受講が困難な若年大工技能者を対象に、短期訓練を実施。短期訓練は「現寸図作成」「部材組立加工」に絞って講習。12地域35人が受講。95回475h実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○受講生の技能レベルの向上に合わせて、講習の水準を当初想定よりも向上させて実施することができた（Lv2講習の増加）
○受講者アンケートで理解度や、技術・技能に関する自己評価が8割近くの高い水準であった。講師アンケートでも受講者の技術・技能について「向上した」が69.4%と一定の水準となった。
○成果目標として掲げた受講者・講師のCCUS登録率等で大きな進捗が見られた。
・受講者 CCUS技能者登録率＝17.2%→20.6%、レベル2以上判定率＝0.0%→14.3%
・講師　CCUS技能者登録率＝29.8%→51.0%、レベル3以上判定率＝35.7%→56.0%

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○技能者の育成・担い手確保に重要な役割を持つCCUSに関する理解を受講者の所属事業所に広げる必要がある。
○普段の現場で使うことの少なくなった手刻み等の技術について「こうした講習の場でこそ学ぶ必要がある」とうい声の一方、「普段の現場で使える技能を学びたい（教えたい）」という声が講師・受講者双方ともにあるため、受講者の希望や地域の実情にあわせて丁寧なカリキュラム構成が引き続き必要となる。

令和3年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】



長期訓練　茨城県　11/14 Lv2(実技)　和室の造作



長期訓練　徳島県
11/20Lv1(実技)仕口・継手の加工・組立



長期・分散訓練　　愛知県　10/8　建築現場
PB張り採寸及び釘ピッチの指導



長期訓練　神奈川県
11/14 Lv2(座学)設備機器との関係



長期訓練　島根県
7/24 Lv2(座学)CAD講習

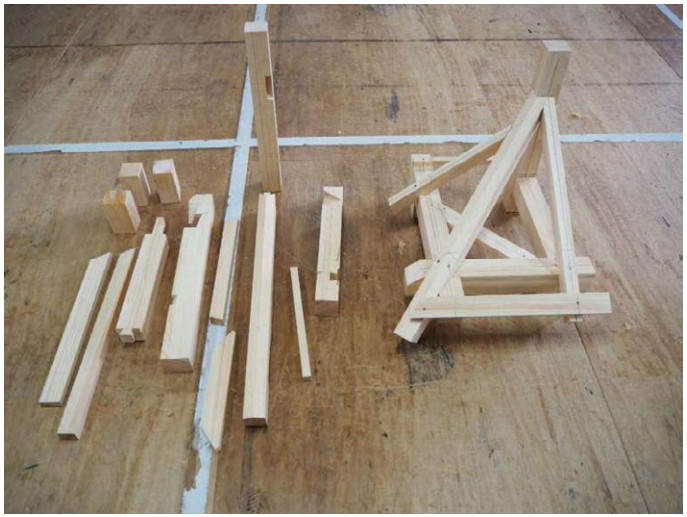


短期訓練　　福島県　7/25

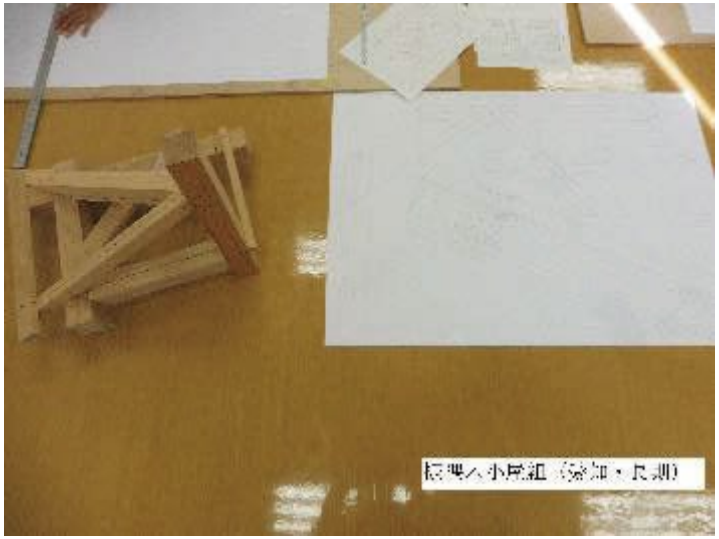
令和3年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】



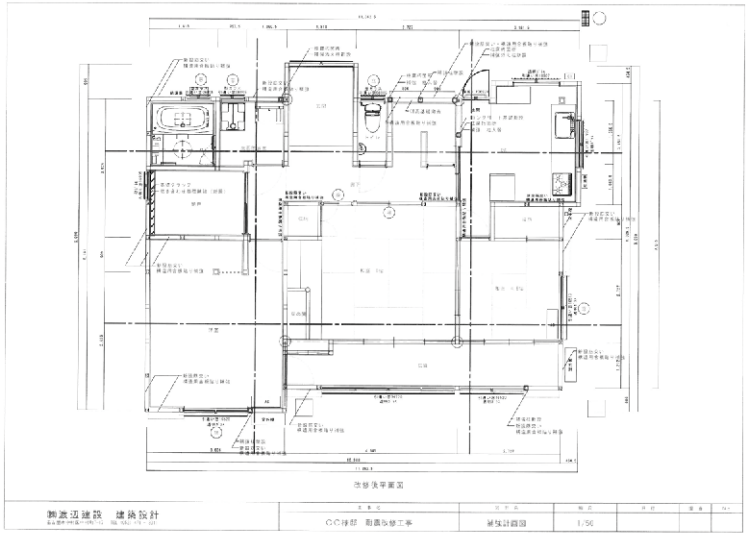
短期訓練　　多面体小屋組



長期訓練　　広島県　振れ隅木



長期訓練　　愛知県　振り隅木小屋組



長期訓練　　愛知県　N値計算用問題

令和3年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**島根県、広島県（全2地域）**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：54名（男性35名、女性19名）**
受講者属性	種別	**建築科工業高校生：54名**
	年齢構成	20 歳未満：**54名**
座学・実技研修	座学	**0回**
	実技	**2回（島根：1回、広島：1回）**
	計	**2回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○島根県立「出雲工業高校」建築科1年生36人。職業体験としてのプランター作成、道具の使い方指導。
・最初にパンフレットを用いて建築大工の仕事や道具について話をしたうえで作製手順について説明。その後、金槌、のこぎり等の使い方を指導しながらプランターを作製。
○広島県立「宮島工業高校」建築部1～3年生10人。職業体験として四方転び踏み台の現寸図、作品加工技能指導。
・技能競技大会の映像、CCUS高校生チャンネルを視聴後に課題図面と作品見本をもとに建築大工の仕事や道具について話をした。大工仕事の奥深さ、モノづくりの楽しさを重点的に伝えた。
・使用するノミとカンナの刃の仕上がり状態を確認し、生徒一人一人によるカンナかけを行い手道具の手入れ、仕上がり調子をつかんでもらった。
・作品加工では、普段自分たちで研いでいるノミ・カンナと比較し大工の技能の高さ、仕事のスピードに感嘆していた。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○教育機関(工業高校)へのアンケートでは「建築大工への理解が深まった」とする評価率が100%であった。
○受講者(生徒)へのアンケートでも「十分深まった」「深まった」が合計で100%と非常に高い評価。
○「モノづくりの楽しさを体験できた」という声はもちろん、「将来は大工になろうと考えていたが、今回のキャリア教育でより働きたい気持ちが強くなった」「以前よりも建築大工として働きたいという思いは高まった」と具体的な入職先の候補に挙げられたことは大きな成果の一つといえる。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○建築科の教師に話によると、設計士など技術者志望の生徒が増えているとのこと。こうした体験を通して技能者としての仕事の楽しさを引き続き伝えていく必要がある。
○また、生徒らが実際に職業選択をする高校3年時に建築大工・建設業を選んでもらえるような処遇・職場環境を整えることが急務。
○感染症対策に配慮しながらの実技指導。実施する教育機関の増加。

令和3年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【確保】





確保　島根県　12/10出雲工業高校 職業体験としてのプランター作製、道具の使い方指導





確保　広島県　12/15宮島工業高校　職業体験としての四方転び踏み台現寸図、作品加工指導

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域の工務店を中心とした
地域連携大工育成プログラムの構築と実証

令和4年3月8日

一般社団法人 JBN・全国工務店協会

令和3年度　地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**山形県、富山県、埼玉県、千葉県、山梨県、長野県、兵庫県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、熊本県、鹿児島県（全13ヵ所県（大工事業））オンライン開催（リフォーム事業）**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：106名（男性106名）（大工事業） 142名（男性142名）（リフォーム）**
受講者属性	種別	**大工：248名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**19名**　30歳代：**81名** 20-24歳：**48名**　40歳代：**72名** 25-29歳：**28名**
座学・実技研修	座学	**29回（12会場：29回）**
	実技	**140回（13会場：140回）**
	計	**169回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○プレカット加工を前提としたコースと手刻みを前提としてコースを用意し実施。座学に関しては、両コースとも共通課題として社会人基礎、労働安全衛生法、木造軸組住宅概論を受講。プレカット加工を前提としたコースでは、建方、外装、内装施工法、設備機器の取付、道具工具類の取扱い等についての技能を学び、大工能力評価レベル2の修得を目指す。手刻みを前提としたコースでは、差し金の使用方法の基本から規矩術の基本を学び、毎年度その年に学習した内容に基づき現寸図作成及び墨付け・加工までの流れを実施。

○リフォーム講習会事業
受講者の基本技能の向上を目的としてリフォーム講習会実施。現場検査の実施に関する知識技能の向上を目指す。本講習会を受講することで、インスペクションの基本的な考え方を学び、それを家守りにつなげることがインスペクションの重要なことだと学ばせる。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○事後評価を行った結果は、全体的に成長し、「大工技能」の自己評価を除き、自己・上司評価ともレベル2になった。自己・上司評価とも⑧「木材・建材の知識」が最も伸びた。

○結露傾向と原因の追究（天井裏）やひび割れの傾向と原因の追究等、具体的な事例を踏まえながらの説明を行い、住宅の各部位における手入れ・メンテナンスの方法等を理解することができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○事後評価の結果、課題点として「大工技能」が低い傾向があり、引き続き育成が必要である。改善点としては、階段・和室等の技能を学ばせることで、現代にあった大工技能向上を学ばせることが必要である。

○リフォーム講習会においては、コロナ感染拡大の影響でオンラインになってしまい、対面と違い講師がしゃべる一方的な講習会になりがちなので、実例を踏まえた研修会にしたが、対面での開催が望ましい。

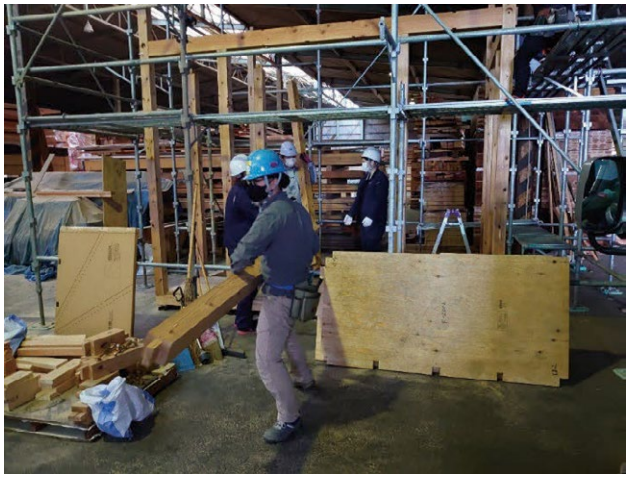
令和3年度　地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【育成】





座学・実技（愛媛）



実技：解体（香川）



実技（埼玉）



実技（山梨）



実技（熊本）

令和3年度　地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山形県、愛媛県、福岡県（全3ヵ所）**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：32名（男性30名、女性2名）**
受講者属性	種別	**その他（工務店経営者等）：32名**
	年齢構成	20歳代：**0名**　50歳代：**20名** 30歳代：**0名**　60歳～：**7名** 40歳代：**5名**
座学・実技研修	座学	**9回（3会場：9回）**
	実技	**0回**
	計	**9回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○地域ネットワーク構築に向けた地域WGの実施
・地域ネットワークの一般市場における認知度（知名度）向上に向けた取組の実施
・公共機関・教育機関との連携、協力体制を構築し教師・教員とのネットワークの構築や積極的なインターシップの受入れ、出前木造講座の提案等の実施
・参加工務店の各種保険、就業規則、賃金規程等の環境整備に対する協力体制の構築
・工務店グループによる求人票の提出と入職後3年間の賃金の統一化（グループ内協定）等の雇用条件の検討
・入職3年間の育成プログラムの検討と実施（共通知識・技能の習得補助）と入職者がコミュニケーションをとりやすい環境の提供
・雇用大工の業務平準化と人材不足への対応に向けた、手空き大工の活用等グループ内の大工職人の業務従事状況の共有と活用に向けた検討と実証

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○地元就業希望者への取組みの見える化として、工業高校等の関係教育機関だけでなく、普通科へも提案範囲を広げ、協会として雇用希望リスト等の提案配布の検討を始め次年度試験的に運用を行う成果があった。
○仕事情報ネットワークの取組み内容の検討として、社員大工情報の共有と参加事業者の依頼情報の共有を各地域で行う試験的に運用を開始した。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○団体として雇用に関して、採用ルールを統一することが必須だが、賃金や職場環境（就業規則等）を含めて各社で対応が異なり、体制を整備するのに時間がかかる。一つ一つ情報共通をしながら進めることが必要。

○仕事情報の共有に向けて実証の準備を行ったが、忙しい工務店との調整が必要になり、今後実働にむけて実証を重ねていく必要がある。

令和3年度　地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【確保】



地域WG（山形）



地域WG（福岡）



地域WG（愛媛）



地域WG：オンライン（愛媛）

大工志塾

令和4年3月8日

一般財団法人 住宅産業研修財団

令和3年度　大工志塾（（一財）住宅産業研修財団）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域		**福島県、東京都、石川県、長野県、愛知県、大阪府、福岡県（全7ヵ所）**
事業期間		令和3年5月14日～令和4年3月4日（**約10ヵ月**）
受講者数	実数	**育成：95名**（男性88名、女性7名） 1期生：19名　2期生：19名 3期生：23名　4期生：34名
受講者属性	種別	**大工：95名**（見習いを含む）
	年齢構成	20歳未満：**11名**　30歳代：**11名** 20-24歳：**48名**　40歳代：**3名** 25-29歳：**22名**
座学・実技研修	座学	**全体：418回**（福島16回・東京79回・愛知84回・大阪85回・福岡84回・石川25回・長野45回） 1期生：**74回**（福島16回・東京14回・愛知14回・大阪16回・福岡14回） 2期生：**123回**（東京23回・愛知25回・大阪25回・福岡25回・石川25回） 3期生：**131回**（東京24回・愛知27回・大阪26回・福岡27回・長野27回） 4期生：**90回**（東京18回・愛知18回・大阪18回・福岡18回・長野18回） ※1コマ3時間の講義を1回として計上 ※会場によって講義回数が異なるのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できなかった講義があるため
	実技	**全　体：10回** 1期生：**1回**（修了制作（石場建て足固め工法　板倉造住宅）） 2期生：**1回**（四阿（あずまや）） 2・3期生：**5回**（建築大工技能検定課題演習※）※東京・愛知・大阪・福岡・長野で　各1回実施 3期生：**2回**（五重塔、五重塔残工事） 4期生：**1回**（合掌造）
	計	**428回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○工務店に所属する若手大工等を対象に、伝統的な木造軸組構法に関する「知識・理論」と「技術・技能」の両面を兼ね備えた大工技能者として育成すべく、3つの育成プログラムに基づき教育指導を行う。

1）**座学**：毎月1回・2コマの講義を各地で実施。新型コロナウイルス感染症対策として、一部講義をオンライン形式で実施
2）**OJT**：基本的な礼儀や道具の扱い、座学「規矩術」の宿題、「集合実技研修」の課題等を受講生が所属する工務店の指導棟梁が指導
3）**集合実技研修**：年に1～2回、群馬県神流町に受講生が集合し、合宿で様々な課題制作や体験学習等を行う

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○所属工務店から受講生への評価（OJT）
・建て方で段取り等を考えられるようになり、スムーズにミスなく行えた
・化粧柱への鉋がけや棚等の簡単な家具の制作ができるようになった

○建築大工技能検定
・令和2年度の1級に3名、2級に20名、3級に1名受検し、**2級に3名合格、3級に1名合格**（学科には1級1名、2級2名が合格）
・令和3年度は**1級に9名、2級に22名、3級に2名が受検予定**

○コミュニケーション
・総じて受講生同士の仲が良く、受講生・講師間も、講師が自発的に行った技能検定の課題演習にも意欲的に参加する等、良い関係が築けている

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○受講生の普段の業務内容によって、どうしても手道具の扱いにレベル差が生じてしまうこと。また、規矩術の座学講義においては、展開図の作図等を行っているが、集合実技研修で実際に墨付け・手刻みをさせると苦戦する受講生が多い。
○上記を踏まえ、次年度に向けては座学講義の一部を実習に切り替える等、受講生の技能の定着率を向上させる取組を検討している。

令和3年度　大工志塾((一財)住宅産業研修財団)【育成】

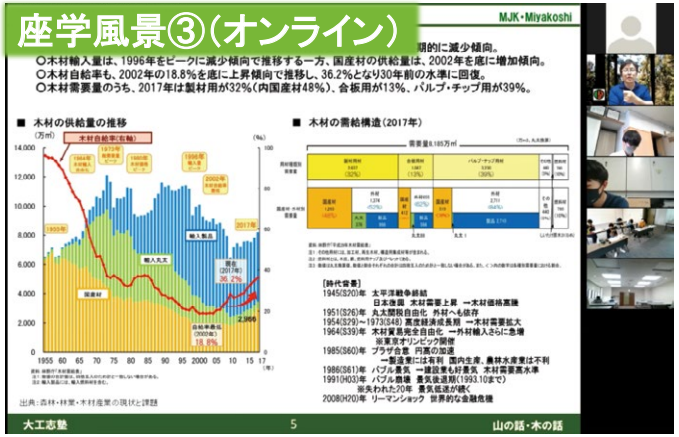
座学風景①



座学風景②



座学風景③(オンライン)



集合実技研修「石場建て足固め工法 板倉造住宅」



集合実技研修「四阿(あずまや)」



令和3年度　大工志塾((一財)住宅産業研修財団)【育成】

集合実技研修「五重塔」(墨付け)



集合実技研修「技能検定課題演習」(手刻み)



集合実技研修「合掌造」(鉋がけ)



集合実技研修「五重塔」(建て方)



集合実技研修「技能検定課題演習」(完成)



集合実技研修「合掌造」(建て方)



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業

令和4年3月8日

一般社団法人 全国木造建設事業協会

令和3年度　災害時の応急仮設住宅等対応における大工技能者等技術・技能向上研修会
（（一社）全国木造建設事業協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**北海道、山形県、埼玉県、千葉県、神奈川県、富山県、山梨県、長野県、京都府、大阪府、兵庫県、島根県、山口県、徳島県、香川県、福岡県（全16ヵ所）**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：311名（男性311名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：311名**（見習いを含む）
	年齢構成	20 歳未満：**0名**　30歳代：**160名** 20-24 歳：**12名**　40歳代：**94名** 25-29 歳：**45名**
座学・実技研修	座学	**11回（11会場：1回）**
	実技	**7回（7会場：1回）**
	計	**18回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○【木造応急仮設住宅実習訓練研修会（界壁施工編＆木杭編）】
研修内容：施工手順・図面説明・断熱、界壁施工・木杭打打込み・レベル合わせ・施工実習

○【木造応急仮設住宅実習訓練研修会（木杭編）】
研修内容：全木供概要・施工手順・図面説明・木杭打打込み、レベル合わせ・施工

○【応急仮設住宅図面・施工・管理研修会】
研修会内容：図面、仕様説明・施工管理等

○【応急修理対応研修会】
研修内容：応急修理とは・応急修理概要・修理方法・作業行程の確認・施工方法及び注意事項、施工実習

○【全国研修会】
令和 3 年度国土交通省補助事業における成果報告

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○界壁施工を中心とした研修会を行い、普段全く界壁施工をしない大工でも、施工内容・方法を理解し、実際に界壁施工の実習を行うことで、防音効果や断熱性能の向上等を理解することができ、災害発生時に一定水準の仮設住宅を建設できるレベルようになった。

○基礎が木杭であることを認識させ、木杭を基礎にすることで一番重要なレベル合わせを中心に行うことで、ずれや高さ等をきちんと施工しないと建物自体にゆがみを生じることを理解することができ、災害発生時に木杭での建設に対応できるようになった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○木造応急仮設住宅実習訓練研修会（界壁施工編＆木杭編）では、大工受講者により、断熱材の入れ方に差があり、綺麗に入れることができない受講者もいるので、断熱性能の重要性を再度認識してもらうことが必要である。

○応急仮設住宅図面・施工・管理研修会では、各県により図面が異なる部分があるので、差異が発生時に他県から応援にきた大工がすぐに対応ができるよう全国で図面・仕様を把握できる体制整備が必要である。

令和3年度　災害時の応急仮設住宅等対応における大工技能者等技術・技能向上研修会
（（一社）全国木造建設事業協会）【育成】





木造応急仮設住宅実習訓練研修会（木杭＆界壁施工編）11月25日　山形県研修会実施風景



木造応急仮設住宅実習訓練研修会（木杭編）
10月20日　大阪府研修会実施風景



応急仮設住宅図面・施工・管理研修会
12月18日　島根県会場

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域の建材店を中心とした地域の会
大工担い手育成事業

令和４年３月８日

一般社団法人　全国住宅産業地域活性化協議会

令和3年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業

（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**鹿児島、長崎、山口、広島（広島）、広島（福山）、岡山、鳥取、大阪、福井、愛知（岡崎）（全11ヵ所）**	
事業期間	令和3年6月1日～令和4年1月31日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：62名（男性60名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：49名（見習いを含む）** **設計・営業等：13名**
	年齢構成	20歳未満：**14名**　30歳代：**7名** 20-24歳：**31名**　40歳代：**2名** 25-29歳：**8名**
座学・実技研修	座学	**126回（11会場延べ回数）**
	実技	**148回（11会場延べ回数）**
	計	**274回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

【各地域における大工育成事業の実施】

○建材流通店を核に、地域の工務店との人材育成を可能とする環境を構築し3か年事業として育成事業を実施。
各地域、受講生レベルに応じたカリキュラムを基に座学・実技研修を実施。
＜座学＞
・社会人としての心得、マナー、安全衛生知識、道具の知識、木造軸組み概論、プレカット工場見学などを実施
＜実技＞
・実習棟による建て方実習
土台敷き、建て方、外部施工、内部施工～解体まで一連の研修を実施

○受講前、受講後の能力評価シートによる成長度の測定とフィードバックを実施

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○目標としている最終年度までに受講生のCCUS　レベル1からレベル2への向上の達成率80%の達成が見込める結果となった。
○全体研修による各地域の取組内容の情報共有、なぜ取り組むのか？など研修目的の理解が図れた。
○委員会（オンライン）では、新規参加の岡崎へのサポート、カリキュラムの作成、運絵ノウハウの共有化が図れた。
又、次年度のカリキュラム検討に向けリフォーム研修の検討など一定の成果を出すことができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○受講生（新規入職）の確保。
○「大工」の魅力の発信による入職者確保と離職の歯止め。
○講師は、受講生の技術レベルが自信をもって現場へ出せるレベルとなっているか、の見極めと指導。
○育成の標準化（再現性）へ向けたツール、資料などの更なる充実。

【研修風景】

＜鹿児島＞




＜長崎＞




＜山口＞




＜広島＞




＜福山＞




＜岡山＞




【研修風景】

＜鳥取＞




＜大阪＞




＜福井＞




＜山梨＞




＜岡崎（三河）＞




令和3年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業

（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）　【2.確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**確保委員会：東京 地域ネットワーク委員会の実施：山梨県、山口県（全2ヵ所）**	
事業期間	令和3年6月1日～令和4年1月31日（**約8ヵ月**）	
委員者数	実数	**・確保委員会：7名（男性7名） ・地域ﾈｯﾄﾜｰｸ委員会：18名（男性18名）**
委員	種別	**・確保委員会：7名 （既存地域3名＋参加検討地域4名） ・地域ネットワーク委員会：18名 （山梨：9名・山口：9名）**
委員会	確保委員会	**3回**
	地域ﾈｯﾄﾜｰｸ委員会	**6回（山梨：3回、山口：3回）**
	計	**9回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

【確保委員会】

〇現在大工育成事業に取り組んでいる代表3者、参加を検討している地域の代表4者による委員会にて育成事業参加への課題、ハードルの抽出及び検討。

（抽出した課題）

・受講生、講師の確保

・建築大工以外の住宅に関わる技能者の育成の重要性

・実習棟場所の確保　など

【地域ネットワーク委員会】

〇山梨・山口にて委員会を実施。

・工務店大工の仕事の平準化や、雇用・育成についてのネットワークの在り方について議論。

・雇用条件、就業規則などについての検討。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

〇確保委員会

・3回の委員会を経て、次年度新たに育成事業への参加を検討する地域に対し既存地域がサポートを行う事、などを決定。

〇地域ネットワーク委員会

・山梨：地域のネットワーク構築（仕事情報共有化）へ向けた準備が完了。

・山口：新規入職者の確保へ向けた大工の魅力発信などの実施へ向けた方向性を決定。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

〇確保委員会

・建築大工は勿論の事、住宅に関わる様々な技能者の参加（サイディング、サッシなど）も検討していきたい。

〇地域ネットワーク委員会

・新規入職者確保へ向けた、職業としての大工の魅力の伝達手段の工夫。

【委員会】

＜育成委員会＞

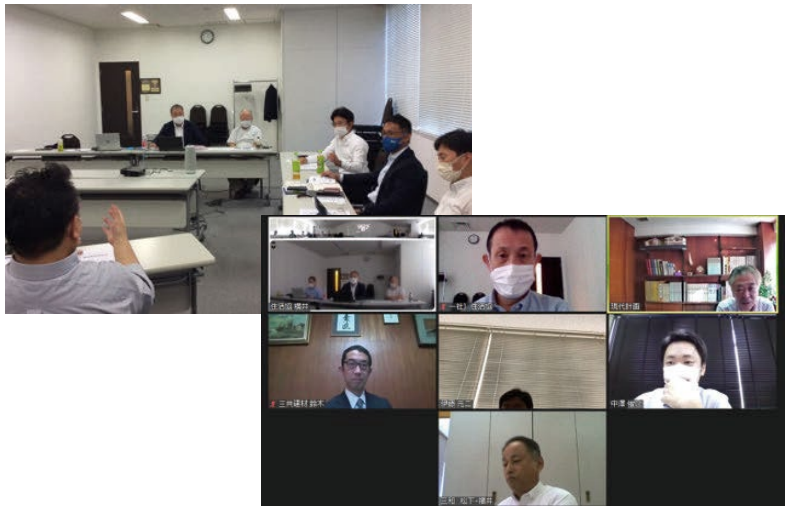


＜集合研修＞





＜確保委員会＞



＜地域ネットワーク委員会＞

・山梨



・山口



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

伝統技術を活かした
技術者育成・確保プログラム

令和4年3月8日

一般社団法人 全国古民家再生協会

令和3年度　伝統技術を活かした技術者育成・確保プログラム（（一社）全国古民家再生協会）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**群馬県、埼玉県、千葉県、富山県、岐阜県、愛知県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県（全10ヵ所）**	
事業期間	令和3年9月1日～令和4年2月10日（**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：66名（男性66名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：（見習いを含む）66名**
	年齢構成	20歳未満：**3名**　30 歳代：**16名** 20-24 歳：**16名**　40 歳代：**14名** 25-29 歳：**17名**
座学・実技研修	座学	**26回（群馬県：2回、埼玉県：4回、千葉県：2回、富山県：3回、岐阜県：2回、愛知県：4回、京都府：2回、福岡県：2回、熊本県：2回、宮崎県3回）**
	実技	**70回（群馬県：7回、埼玉県：6回、千葉県：8回、富山県：5回、、岐阜県：4回、愛知県：5回、京都府：5回福岡県：4回、熊本県：26回、宮崎県：0回）**
	計	**96回（群馬県：9回、埼玉県：10回、千葉県：10回、富山県：8回、岐阜県：6回、愛知県：9回、京都府：7回、福岡県：6回、熊本県：28回、宮崎県3回）**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○工務店に所属する大工等を対象に伝統構法に関する知識を習得いただき、伝統構法に関する様々な知識を習得することで現在の建築においても応用を活かせる大工技能者を目指します。

1）座学：合計8時間の講義を各地で実施。終了時に古民家鑑定士の試験項目を活かした試験を実施。

2）実技：合計40時間を所定時間とし各自で実施。実際に1坪から1坪半の住宅模型を製作する課題を実施。製作にあたり模型図面をもとに墨付け・手刻みを実施。

○令和の太子講を通じ大工技能者として次の代へ技術とともに受け継ぐことを目指す。
※太子講とは・・・大工職人が神様と崇める「聖徳太子」をお祀りするための「太子講」は、室町時代の後期頃450年程前頃から、全国各地に広まっていったのですが、近年では少なくなってきています。一般社団法人全国古民家再生協会では、「令和（平成）の太子講」として祭典をおこない大工職人の大切な行事として実施しています。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○座学では古民家鑑定士で使用する試験項目を活用し習熟度を確認し、全ての受講者において、技術部分以外の古民家における総論ならびに伝統構法について深く学ぶことができ、高い得点だった。
○実技では大規模な模型製作を実施することで、墨付け・刻みの技術を習得できた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

＜座学＞

○定期的な座学開催で技術以外の知識を兼ね備えることも必要

＜実技＞

○実技においては、余裕をもった実施期間の確保が必要。

＜令和の太子講＞

○大工職人たちが各地域での実施を目指し継続することが重要

令和3年度　伝統技術を活かした技術者育成・確保プログラム(（一社）全国古民家再生協会）　【育成】



座学風景



実技風景

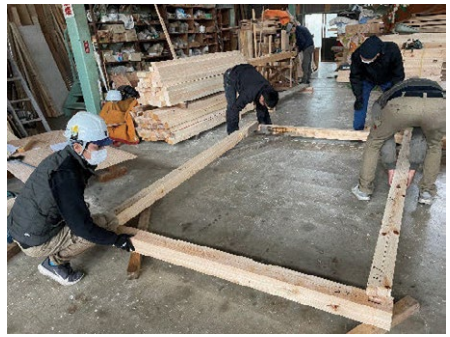




実技風景







令和の太子講







令和3年度　伝統技術を活かした技術者育成・確保プログラム（（一社）全国古民家再生協会）　【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	Youtube	
事業期間	令和3年12月24日～令和4年1月25日（**約1ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：-名（男性-名、女性-名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：-名**
	年齢構成	20歳代：**-名**　50歳代：**-名** 30歳代：**-名**　60歳～：**-名** 40歳代：**-名**
座学・実技研修	座学	大工道具の使い方（初級編）**938再生** 大工の職人技（上級編）　**33565再生**
	実技	-回
	計	-回

2-2. 研修活動等の概要【確保】

（第1話）30分 ※初級
大工道具の使い方～鉋、鋸、鑿、金槌、差し金、墨壺の基本～
https://youtu.be/xreBCVmEzCg
・大工技能者が取り扱う様々な工具（手入れ方法）
・大工技能者による墨付け、手刻み

（第2話）30分 ※上級
大工の職人技～丸太の墨付け、ちょうな、様々な継手と仕口の解説～
https://youtu.be/hIb2zwBvDhE
・様々な仕口加工や根継ぎ方法
・曲線丸太（古材梁）等の応用墨付け

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

〇Youtubeを活用し大工技能者の道具や技術を広く認知いただくことができた。

【動画視聴回数】2021年12月24日～2022年2月10日
大工道具の使い方（初級編）　938再生
大工の職人技（上級編）　33565再生
※公開してから約20日後くらいより周知効果により視聴回数が伸びた。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

〇大工技能者を一般向けに公開するにあたり、どの部分をメインに切り出し周知するかで見え方が異なるので念入りな打ち合わせが必要。

〇専門知識が多く、編集に時間を要したため、余裕を持った製作時間を持つことが重要。

令和3年度　伝統技術を活かした技術者育成・確保プログラム(（一社）全国古民家再生協会）　【確保】

動画撮影風景①





大工道具の使い方　～鉋、鋸、鑿、金槌、差し金、墨壺の基本～

2,596 回視聴・2021/12/24　高評価　低評価　共有　保存

Youtube（上級編）

動画撮影風景②





大工の職人技　～丸太の墨付け、ちょうな、様々な継手と仕口の解説～

21,754 回視聴・2021/12/24　高評価　低評価　共有　保存

Youtube（初級編）

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

CLT建築物の
大工技能者等の担い手育成事業

令和4年3月8日

一般社団法人 日本CLT協会

一般社団法人日本CLT協会

当法人は、CLT（Cross Laminated Timber）及びCLT工法の普及を通じて、木造建築物を中心とした建築の可能性を広げ、より豊かで実りの多い社会を実現し、合わせて森林資源の有効活用や循環型社会の実現に寄与することを目的としている団体です。

2012年 任意団体として成立（3団体）
2014年 一般社団法人化（335団体 2021.6時点）

主な事業内容・・・CLT普及活動・技術開発

委員会・WGの一例

① CLTパネル工法省エネ基準検討委員会
② 実務者のためのCLT建築物設計の手引き編集委員会
③ 大臣認定制度運営委員会
④ CLT企画支援委員会
⑤ CLT設計者等の育成委員会
⑥ 輸出事業委員会
⑦ 住宅性能表示制度に関わる検討委員会
⑧ CLT遮音性能向上の研究開発検討委員会
⑨ CLT等の利用促進及び低コスト化推進に係る技術開発・検証等
⑩ CLTの消費拡大を目的とした土木分野への活用研究委員会
⑪ ソフト開発WG
⑫ 設計WG
⑬ 製造・加工WG
⑭ 広報・普及WG
⑮ 耐久性WG
⑯ 施工合理化WG
⑰ 遮音WG
⑱ 防耐火WG
⑲ ブランド戦略WG
⑳ 用途開発WG

2. 補助事業の概要

（1）事業名

住宅市場整備推進等事業

（木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業））

（2）事業主体名

CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業

（3）事業背景・目的

CLT パネル工法の設計に関する内容は充実しつつあるが、CLT パネル工法が他木造工法に比べると新しい工法であるため、CLT 知識・施工経験を持った職人が少ないため、未経験での建築は戸惑いも多く、施工を敬遠されている。

⇒CLT パネルの量的拡大と工法の普及を安定的に促進するためには、**施工者の育成**が必要

CLT の建築とその他木造建築の施工の主な違いや重要なポイントとなる建て方の基礎知識・建て方の施工手順等のノウハウを、CLTパネル工法の施工経験者による**「実務講習」**を実施することにより、受講者の方がCLTパネル工法の施工に関する知識を習得できることを目的としている。

令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業((一社)日本CLT協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**千葉県、静岡県(全2ヵ所)**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日(**約9ヵ月**)	
受講者数	実数	**育成:128名**（講習会:27名、映像配信:101名）
受講者属性	種別	**大工等:27名**（講習会:27名） **その他:101名**（映像配信:101名）
	年齢構成	講習会 / 映像配信 10歳代：0名 / 0名 20歳代：0名 / 10名 30歳代：6名 / 24名 40歳代以上：21名 / 67名 合計：27名 / 101名
座学・実技研修	座学	**2回（千葉会場:1回、静岡会場:1回）**
	実技	**2回（千葉会場:1回、静岡会場:1回）**
	計	**4回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

1. **実務講習の実施**
- 2会場で実施(千葉県、静岡県)
- 実務講習は、座学講習+実技講習の2部構成
  ①座学講習
  CLTパネル工法の基礎知識及び施工に関するノウハウ等を座学形式で講習
  ②実技講習
  CLT パネル工法の平屋の建屋(3m×3m×高2.8m 程度)を実際に施工する実習

2. **実務講習の映像配信**
- 千葉会場の実務講習の配信

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

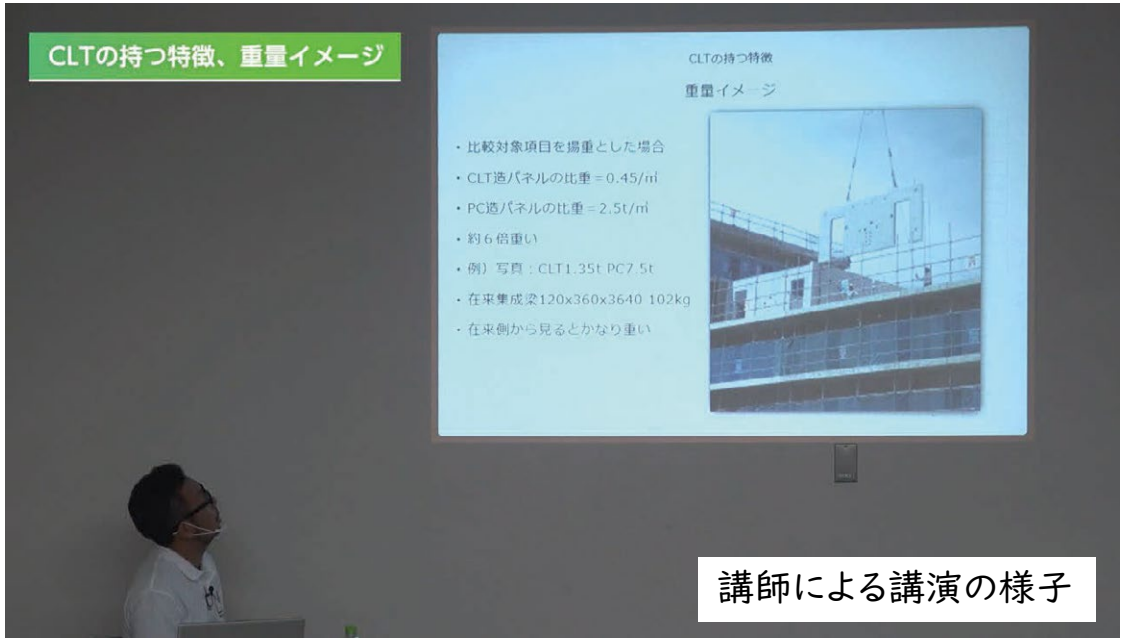
1. 実務講習
①座学講習
確認考査を実施し、受講者の理解度のチェックを行った。受講者全27 名が正解の回答数が70%以上。
②実技講習
「実技チェックリスト」として施工に重要なポイントの理解度の確認を行った。受講者全27 名の理解度は、70%以上が理解できたと回答。
2. 映像配信
職人以外の職種の方にも、広く視聴頂いた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○実務講習の講習の公募方法について
・開催時期の11 月が大工等の職人の繁忙期と重なったことも要因で、受講者の集客が難しかった。
・会場の選定については、職人の方が多そうな土地を選ぶことが必要である。車移動で約1 時間程度の範囲であれば、受講して頂ける可能性が高くなる。
○講習内容について
・χマーク表示金物の露出しない金物(TB-DP 等)については、今回の講習では使用していなかったが、今後実施する際には、モックアップなど、金物の納まりを確認出来るような配慮が必要である。(アンケートより意見あり。)

令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会）【育成】

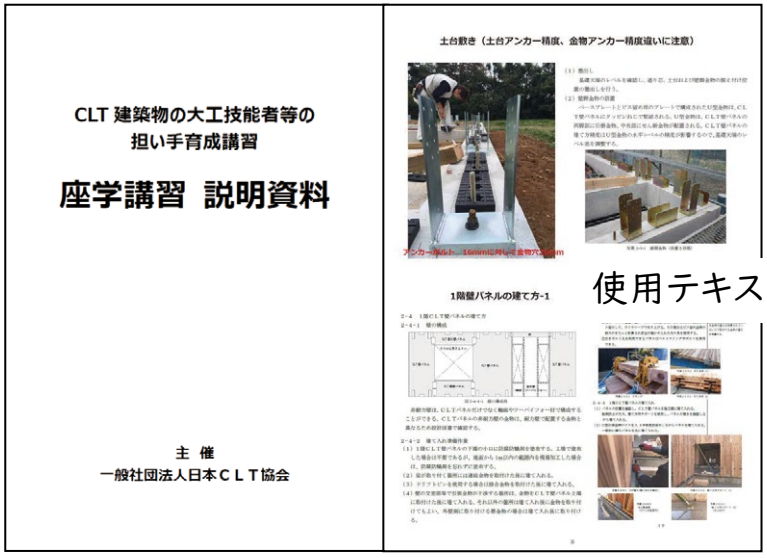
●実務講習　（座学講習）の様子



講師による講演の様子



千葉会場の様子



使用テキスト類



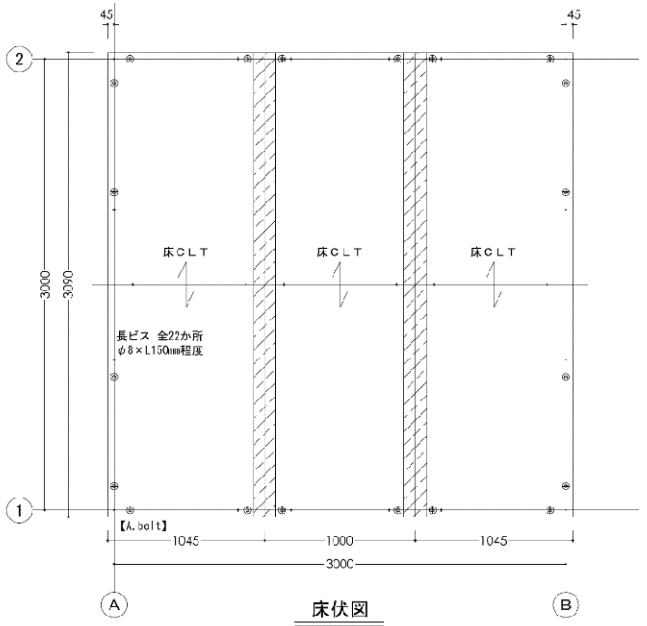


静岡会場の様子

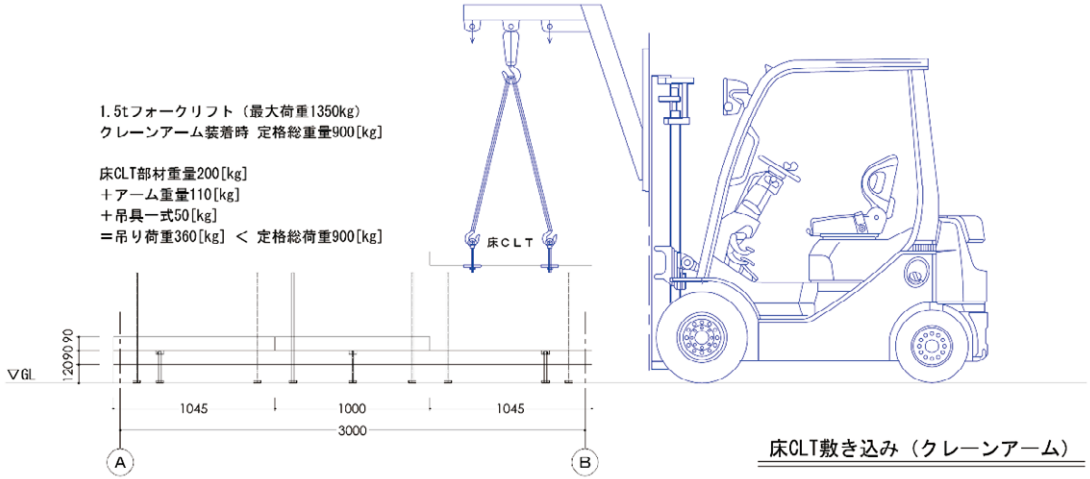
令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業((一社)日本CLT協会)【育成】

●実務講習（実技講習）の様子

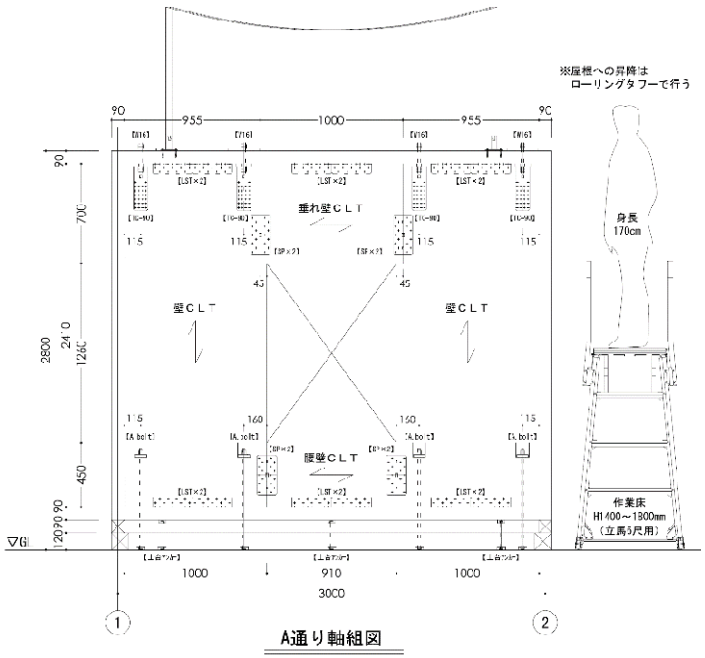




床伏図



床CLT敷き込み（クレーンアーム）



A通り軸組図

令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会）【育成】

●実務講習 （実技講習）の様子

CLT 躯体工事の手順

基礎工事 → 材料搬入 → 足場 → 土台 → 1 階壁 CLT → Step 1 2 階床 CLT → Step 2 2 階壁 CLT → Step 3 天井 CLT → 小屋組 → Step 4 上棟

大工技術者等の担い手確保･育成事業

実技講習建て方のポイント

引用書籍:CLT パネル工法低層建築物施工マニュアル

今回の実技講習を実施するに当たって

1．平屋建て CLT 棟の建て方

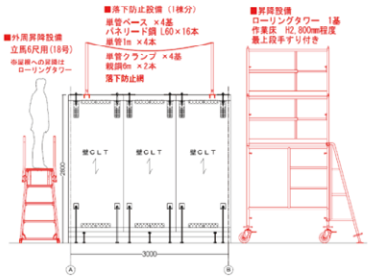
■床・壁・天井の各 CLT パネルの施工方法を実習する。
■χマーク表示金物等の取付方法を実習する。
・基礎と壁パネル　：引きボルト
・床と壁　：せん断金物 LST
・壁と腰壁,垂れ壁　：せん断金物 SP
・壁と天井　：引張金物 TC-90+座金 W16
：せん断金物 LST
・天井相互　：帯金物 STF

2．フォークリフトを使用

■通常は重機（移動式）クレーンを使用する。
注意 フォークリフトは通常使用しない。
■今回のフォークリフトのアーム利用方法
・床パネルと天井パネルの敷き込み
「クレーンアーム」を外側パネルに使用する。
「2000 ㎜アーム」を中間部パネルに使用する。
・壁パネルの建て入れ
「クレーンアーム」を使用する。

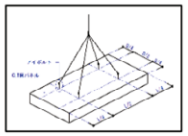
3．今回使用する安全設備

■昇降設備（ローリングタワー）
■落下防止設備（単管+親綱、および落下防止網等）
■外周昇降設備（立馬 6 尺用）
注意 天井への昇降はローリングタワーを使用する。

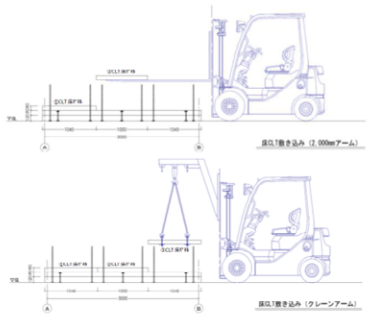


1 CLT 床パネル敷き込み

(1) 玉掛け作業
・アイボルトを取付ける。（外側パネルのみ）




(2) CLT 床パネルの敷き込み
①外側パネル → ②中間パネル → ③外側パネル
（クレーンアーム使用）　（2000 ㎜アーム使用）　（クレーンアーム使用）



(3) CLT 床パネル相互の接合
・合板スプラインをビス留めする。(@200－2 列)
※ビス留めは通常@150-2 列の場合が多い(計算等による)



(4) 土台（外周・中間部）と CLT 床パネルの接合
・長ビスで留め付ける。全 22 箇所
※通常土台の上部に床パネルを設置し接合する施工現場はほとんどない

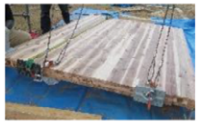
2 CLT 壁パネル建て入れ

(1) 金物の取付け
・壁頭部に引張金物 TC-90、せん断金物 LST、垂れ壁パネル、垂れ壁パネルにせん断金物 LST, SP を適宜、取付ける。

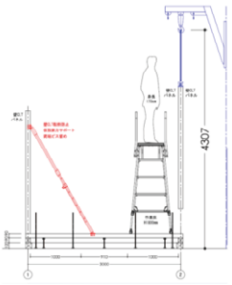
CLT 壁パネル（ｽﾀﾞ）の重さ

	t＝90	t＝120	t＝150
1m×3m	135 kg	180 kg	225 kg
2m×3m	270 kg	360 kg	450 kg

(2) 玉掛け作業
・吊り具を取付ける。

(3) CLT 壁パネルの建て入れ
・仮設建て方サポートを用いる。
・引きボルトのナットを仮止めする。
(4) CLT 腰壁パネルの建て入れ
・せん断金物 SP で仮止めする。
(5) CLT 垂れ壁パネルの建て入れ
・せん断金物 SP で仮止めする。
(6) CLT 壁パネルの倒れを確認する。
建て方精度　壁の倒れ：2~3 ㎜程度（e ≦H／1000mm）
(7) その他の金物の取付け
・壁脚部にせん断金物 LST、その他の金物を適宜、取付ける。







3 CLT 天井パネル敷き込み

(1) 玉掛け作業
・アイボルトを取付ける。
(2) CLT 天井パネルの敷き込み
・手順は床パネルと同様
・落下防止設備を設置
（単管+親綱、および落下防止網等）
(3) CLT 天井パネル相互の接合
・合板スプラインをビス留めする。
・帯金物 STF を留め付ける。
(4) CLT 天井パネルと CLT 壁パネルの接合
・角座金 W16 をナットで締め付ける。
(5) 残っている全ての金物を取付ける。





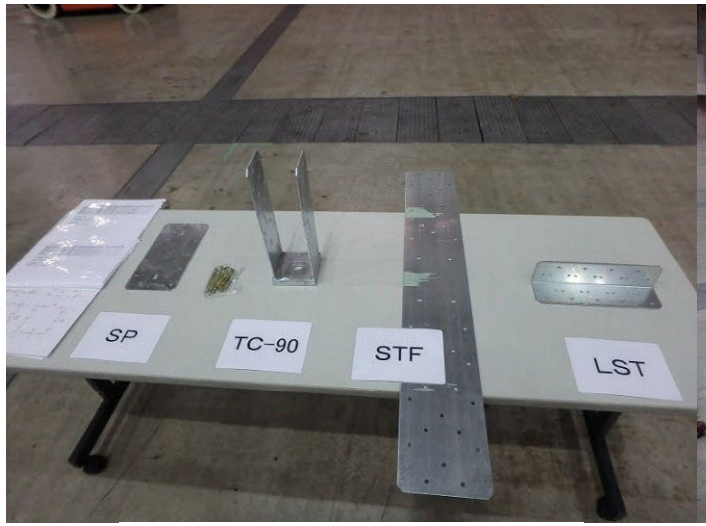
4 上棟

(1) 引きボルトのナットを本締めし、全ての金物のタッピンねじが正確に打ち込まれているかを確認する。
重要 CLT パネル工法は金物接合であるため、多くの金物を使用する。その金物が全て正確に留め付けられているかが重要となる。

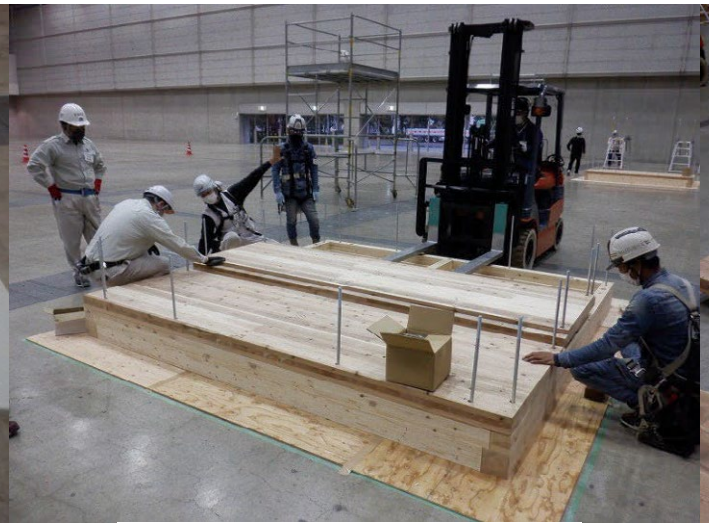
主催:一般社団法人日本 CLT 協会

令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業((一社)日本CLT協会)【育成】

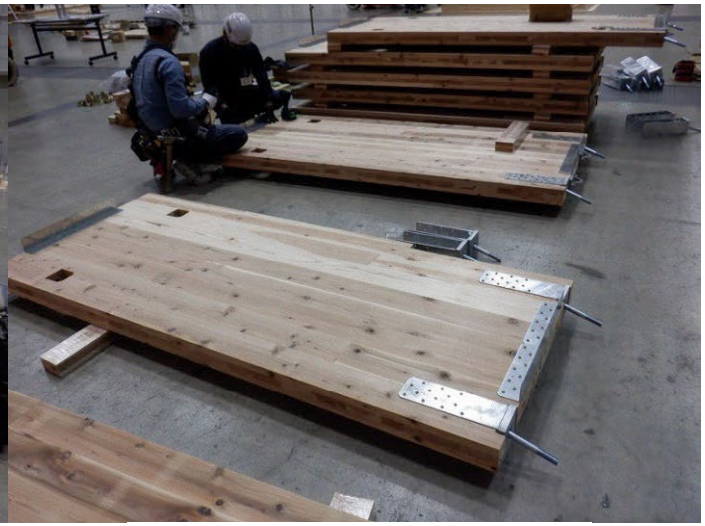
●実務講習　(実技講習)の様子



χマーク表示金物　説明の展示



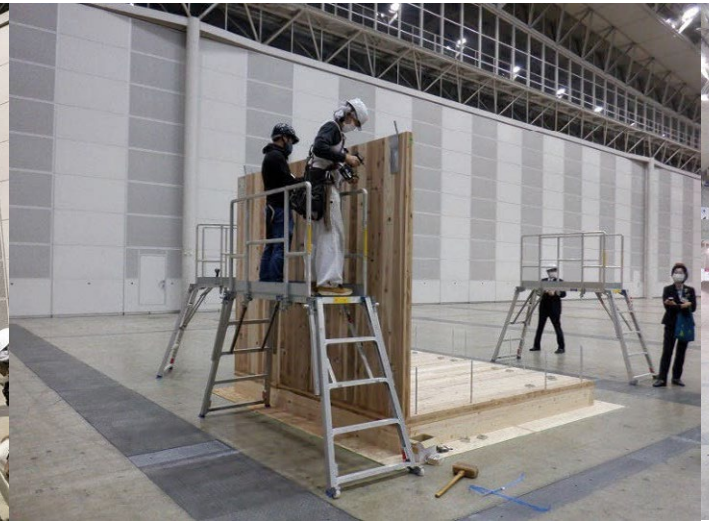
床CLTパネル施工



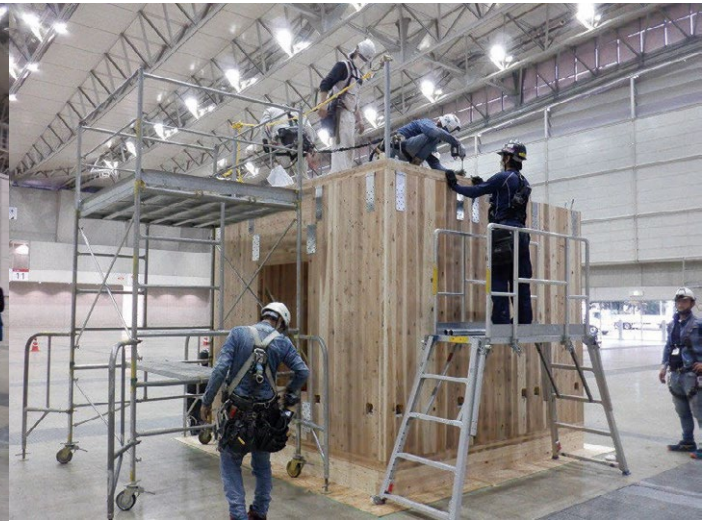
壁CLTパネル金物取付



建て方サポート取付



壁CLTパネルの柱頭部　TC-90　ビス施工



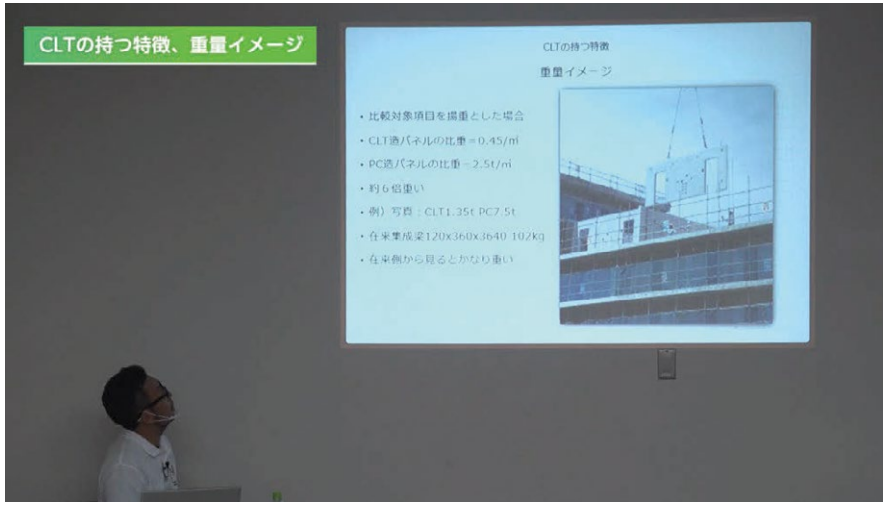
安全設備　落下防止設備(単管+親綱等)

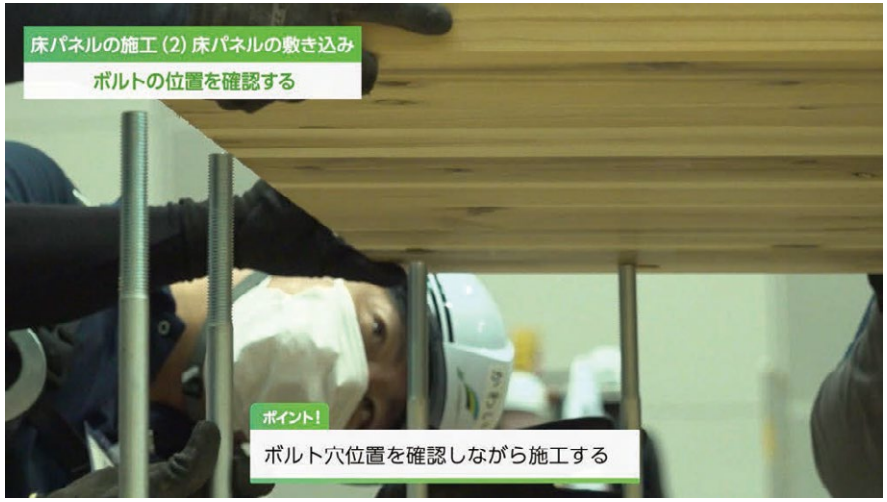
令和3年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会）【育成】

●映像配信について

講習内容のダイジェストの映像収録を行い、CLT パネル工法の施工手順等の内容をより広く普及するために配信

・ 千葉会場の講習映像
・ 受講者：101名





1．業種別

	業種名	受講者数
1	ゼネコン/サブコン/工事会社	13　名
2	ハウスメーカー/工務店/リフォーム会社	12　名
3	建築設計事務所	9　名
4	設備・建材メーカー	23　名
5	小売・流通・商社・問屋	10　名
6	官公庁・自治体	6　名
7	その他（製造メーカー、工具メーカー等）	28　名

2．職種別

	職種名	受講者数
1	営業	20　名
2	設計	25　名
3	施工	13　名
4	その他（CAD、開発等）	43　名

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

北海道の工務店ネットワークよる大工育成

令和4年3月8日

一般社団法人 北海道ビルダーズ協会

令和3年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成(（一社）北海道ビルダーズ協会）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**北海道**	
事業期間	令和3年7月5日～令和4年1月26日（**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：50名（男性47名、女性3名）**
受講者属性	種別	**大工：50名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**3名**　30歳代：**9名** 20-24歳：**14名**　40歳代：**19名** 25-29歳：**5名**
座学・実技研修	座学	**14回（ポリテク会場：8回、旭川会場：2回、猿払会場2回、網走会場：2回）**
	実技	**6回（札幌会場：6回）**
	計	**20回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○ 大工育成委員会　　4回　（委員10名）
全道各地の工務店と技専・高校の担当者を委員とし、各研修会の計画と受講者の募集などを行った。
○ 新人大工座学研修会　8回　（座学研修）
1年～2年目となる新人大工に、北海道の住宅建築に不可欠な省エネ技術を中心に各種構法と大工技能に関する基礎知識に対する研修会を行った。
○ 技能向上研修会　　6回　（実技研修）
1級・2級技能士の実技課題を中心に規矩術の基礎知識と現寸図の作成・墨付け・加工・組立までの研修を行った。
○ 基本技術研修会　　6回　（座学研修）
建築大工として必要な安全教育（丸のこ・足場・木造組立・安全帯）などの研修を行った。
○ 大工育成実態調査　　1回
全道の会員工務店に対し大工の雇用に対するアンケートを行い、年齢や雇用形態・充足度などを調査し、昨年との比較を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○ 新人大工座学研修会
大工技能の基礎知識に関する確認テストで、
2年目となる受講者の理解度に一定の向上がみられた。
○ 技能向上研修会
建築大工技能士1級・2級の技能検定に参加した受講者が、
ほぼ全員合格レベルに達していることを確認した。
○ 基本技術研修会
安全作業に対する確認テストで、受講者全員の80%以上の理解度を確認することが出来た。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○ 北海道は広域にわたることから、各地域での研修会の開催を希望する工務店が多いが、地域開催でまとまった人数の受講者を集めることが難しく、効率の良い周知方法を検討する必要がある。

○ 激減している新人入職者の「確保」の活動を積極的に行わなければ「育成」の対象となる新人大工を集めることが出来ない。

★ポリテクセンター北海道による新人大工育成プログラムの研修

- 平成30年4月より開始し、4年を経過する
- 平成30年：受講者10名（内7名在職中（他社へ転職含む））
- 令和元年：受講者　9名（内9名在職中）
- 令和2年　：受講者 12名（内10名在職中）
- 令和3年　：受講者　5名（内5名在職中）
- ４年間で36名の新人大工入職者に対し31名在職中（在職率86%）





北海道住宅新聞　平成5年1月11日第三種郵便物承認　毎月5・15・25日発行　第1320号　2021年5月5日(水)

基礎学び、指導者としても活躍を

大工研修制度、4年目がスタート

道ビルダーズ協会・ポリテクセンター

42

（一社）北海道ビルダーズ協会（武部豊樹代表理事、武部建設㈱社長）と職業訓練機関のポリテクセンター北海道（札幌市西区）が主催する「見習い大工育成研修会」がこの春、５人の四期生を迎え、先月16日に初回研修が行われた。

この研修会は、年々深刻化する大工の高齢化と慢性的な担い手不足を背景に、道ビルダーズ協会とポリテクセンター北海道が連携して2018年に立ち上げたもの。見習い大工に大工としての基礎を身につけてもらうことが目的で、将来は指導者としても活躍してほしいという願いも込めて、道具の扱いなど初歩的なことから丁寧に指導する。研修期間は３年。また、今年３月には５人の一期生が卒業を迎えた。

初回研修では最初にオリエンテーションが行われ、緊張気味の５人の受講生の前に道ビルダーズ協会・武部代表理事らが激励のあいさつに立った。研修を通じて基礎の養成はさることながら、辛いときに支え合える良き仲間を見つけてほしいということや、新築現場でなかなか実践する機会のない手作業の研修で大工仕事の面白さを感じてほしいといったメッセージに、受講生たちはしっかりとうなづいていた。

1年目は道具の扱いや軸組材の加工、断熱・気密などを習得し、3級技能士レベルの加工技術を身につけることが目的。2年目以降は棟梁・現場責任者を育てる趣旨から大工工事に限定せず、電気や内装なども含めて広く学ぶことになっている。



鉋の研ぎ方について、講師の手本を熱心に見入る若手大工たち

参加した大工の所属は、㈱三五工務店（札幌）、武部建設㈱（岩見沢）、飛栄建設㈱（札幌）の3社。

問い合わせは道ビルダーズ協会へ（☎011-215-1112）。

★新人大工座学研修会（4名～7名参加）

- 8月21日　木造住宅の構造と力の流れ
- 9月4日　建築大工の技能①
- 9月11日　大工に求められる能力
- 10月1日　北海道の住宅建築に必要な省エネ技術
- 12月11日　建築大工の技能②
- 12月21日　住宅の省エネルギー1
- 1月14日　住宅の省エネルギー2
- 1月15日　窓の性能について

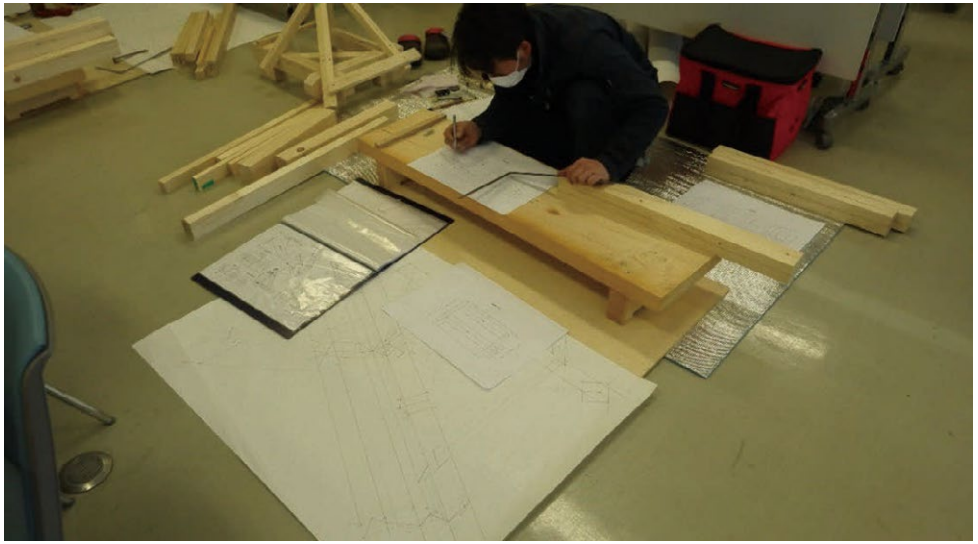




★技能向上研修会(14名参加)

- 11月27･28日　　12月18･19日　　1月4･5日









★基本技術研修会

- 1月18･19日　旭川市
- 1月20･21日　猿払村
- 1月25･26日　網走市







令和3年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成(（一社）北海道ビルダーズ協会）　【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**北海道**	
事業期間	令和3年7月1日～令和3年12月7日（**約3ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：42名（男性38名、女性4名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：31名** **その他（経営者）：11名**
	年齢構成	20歳代：**26名**　50歳代：**4名** 30歳代：**2名**　60歳～：**4名** 40歳代：**6名**
座学・実技研修	座学	**3回（技専会場：1回、網走会場：2回）**
	実技	**0回**
	計	**3回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○ 職業　技能研修会　　1回　27名（座学研修）
技術専門学院にて実際の工務店の仕事内容や工事現場の様子などと、現場で必要とされる大工の技能に対する研修会を行った。

○ キャリアアップ研修会　　1回　　7名（座学研修）
工務店経営者を中心とする管理者を対象に、建設キャリアアップシステムの説明した。

○ 指導者研修会　　1回　　8名（座学研修）
建築大工の職長と管理者を対象に、スポーツコーチングメソッド研修を行い、若年者との接し方や指導の仕方、また、TWIによる「仕事の教え方」「人の扱い方」などの研修会を行った。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○ 職業・技能研修会
個別の質疑対応を行い、実際の職場の様子も直接学生伝えることによって、就職への架け橋となるインターシップ希望者が増えた。

○ キャリアアップ研修会
CCUSへの対応の必要性やメリットを認識していただくことが出来た。
また、登録についての具体的な問い合わせがあった。

○ 指導者研修会
コーチングとティーチングの違いを理解し、若年技能者への接し方を認識していただくことが出来た。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○ 民間工事を主体とする工務店ではCCUSに対する意識が低く、民間団体からの案内だけではほとんど反応が無い。行政・自治体と一体となった周知活動が必要である。

○ 大工の入職者を増やすためには雇用環境の改善が必要不可欠。働き方改革を行うにも、そもそも雇用されていない一人親方や請負制度など、雇う側に都合の良い慣習を改善する必要がある。

令和3年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成(（一社）北海道ビルダーズ協会）　【確保】

★キャリアアップ研修会（7名参加）

- 10月8日　網走研修会



★指導者研修会（8名参加）

- 12月7日　網走研修会



令和3年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成(（一社）北海道ビルダーズ協会）　【確保】

- 7月1日　職業・技能研修会（札幌高等技術専門学院）27名参加・6社の説明









令和3年度 大工育成実態調査　(回答社数＝50社)

★大工の雇用・採用について
- ○社員大工を雇用している企業：72.0%
- ○5年以内に大工の採用が「ある」企業：50.0%
- ○5年間で大工の退社が「ある」企業：48.0%
- ○退社の年代「10代」：7.3%,「20代」：39.0%,「30代」：26.8%,「40代」：12.2%
- ○退社の理由「他社へ」：36.6%,「他業種へ」：22.0%,「独立」：12.2%

★建設キャリアアップシステムについて
- ○CCUS「知っている」：36.0%,「取組んでいない」：26.0%,「知らない」：32.0%
- ○CCUS「事業者登録」検討中：54.0%,　登録完了：22.0%,予定無し：12.0%
- ○CCUS「工務店評価」知っている等：38.0%,　知らない等：56.0%

★資格取得と保有資格
- ○社員大工の「資格」取得を勧奨：42.0%,　個人の判断：22.0%,　支援無し：12.0%
- ○建築大工技能士　一級：44%,　二級：30%　,三級：6%
- ○安全教育等・丸のこ等：42%,　足場の組立：38%,　足場作業主任：42%
- ○登録建築大工基幹技能者：8%

まとめ

大工育成の取組みにより、工務店の意識が向上、雇用改善や定着率の向上に！
入職者を増やすためには、確保の取組みが早急に必要！

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

青森大工技能者育成アカデミー　2021

令和4年3月8日

青森県優良住宅協会

令和3年度『青森大工技能者育成アカデミー　2021』青森県優良住宅協会【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**青森県**	
事業期間	令和3年9月26日～令和4年2月10日（**約6ヵ月**）	
受講者数	**実数**	**育成：６名（男性６名）**
受講者属性	**種別**	**大工：６名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**１名** 20-24歳：**５名**
座学・実技研修	**座学**	**４回（会場：株式会社石郷岡会議室４回）**
	実技	**１回（会場：株式会社石郷岡会議室１回）**
	計	**５回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

若手大工等を対象に仲間や諸先輩とのコミュニケーション能力、同世代との情報共有化等、技術・技能の向上は勿論のこと、現代にマッチした大工技能者を育成する為以下の座学と実技講習を実施。

（座学）

①基礎的知識
- ・大工技能者を取り巻く環境と今後
- ・現場マナーと営業力
- ・緊急災害時に於ける「応急仮設住宅」建設についての概要

②施工管理の実務
- ・木造住宅の工事管理上のポイント
- ・労働安全衛生、建設工事と法規制
- ・木造住宅の品質管理

③木造住宅の木造模型製作とその活用技術
- ・木造工法と材料の特徴と強度について
- ・登録基幹技能者、キャリアアップシステムについて
- ・瑕疵事例

（実技）
- ・継手と仕口加工

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

①自分達は期待されている逸材、貴重な存在であるということを認識させることが出来た。

②現場での営業マン、施主や先輩とのコミュニケーション能力を向上させることが出来た。

③会社の垣根を超えた横の繋がりと情報共有をとることが出来た。

④大工技能だけでなく、施工管理全般の知識を得ることが出来た。

⑤改めて安全意識の向上を図ることが出来た。

⑥資格取得の重要性を再認識、自己啓発の必要性を高めた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

①この事業の重要性を工務店さんの社長に再認識していただき、多くの受講者を派遣してもらう。

②最後の研修予定であった「規矩術研修」が新型コロナウィルス蔓延防止措置発令により中止となった為、それに対応出来るカリキュラム等の見直しを検討して行く。

③特に「技能士」や「施工管理技士」の資格取得者への追跡とフォロー(アナウンスや木材の提供等)をし、資格取得の促進をして行く。

令和3年度『青森大工技能者育成アカデミー　2021』青森県優良住宅協会【育成】

「ガイダンス、現場マナー」研修



「施工管理の実務」研修



「木造住宅の木造模型製作とその活用技術」研修



「プレカット工場見学」



「継手、仕口加工」研修



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

一棟司塾

令和4年3月8日

一般社団法人 東北建設技能協会

令和3年度　一棟司塾（(一社)東北建設技能協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**宮城県（富谷市、石巻市）（全2ヵ所）**	
事業期間	令和3年6月1日～令和4年2月10日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：10名（男性9名、女性1名）**
受講者属性	種別	**大工：10名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**0名** 20-24歳：**4名**　40歳代：**3名** 25-29歳：**3名**
座学・実技研修	座学	**2回（富谷市会場：2回）**
	実技	**24回（富谷市会場：23回、石巻市会場：1回）**
	計	**26回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

①座学
大学建築学部教授・工学博士を講師に招き、木材に関する概論から、最近の研究成果などの講義を実施。

②実技
図面の見方から墨付け、刻み、足場組み立て、基礎工事、平屋の建て方実践、棟上げまで、家が一軒建つまでの一連プロセスを取得するための実技講習を実施。加えて、電動工具の扱い、建設用重機の運転操作、測量の基礎、ドローン操作など、多能工として必要な周辺知識や技能も習得する。

③見学会　（[確保]と合同で行う）
石巻市の百年企業の協力を得て、山林での木材伐採現場、運搬方法、工場での製材・プレカットなど、天然木が建築材になるまでの全工程を見学。木材の需給・流通・価格、木材の加工法と特性など、現代の大工技能者に必要な広範な知見を得る。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

①座学：　木材に関する基礎的知識から、最新の研究成果など、新たな知見を得ることができた。
②実技：　木造住宅建築の全工程を体験し、職人としての伝統的な手作業の技能（墨付け、規矩術、継ぎ手、他）と、電動工具や重機類の操作など多能工としての技能を伸ばすことができた。CCUSに3名が登録した。
③見学会：　建築材の生産の全工程を実地で見知ることができた。
※被災地・東北の地に在って、復興、建替え・リフォーム等の需要に応え、現場に貢献できる人材を育成できた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

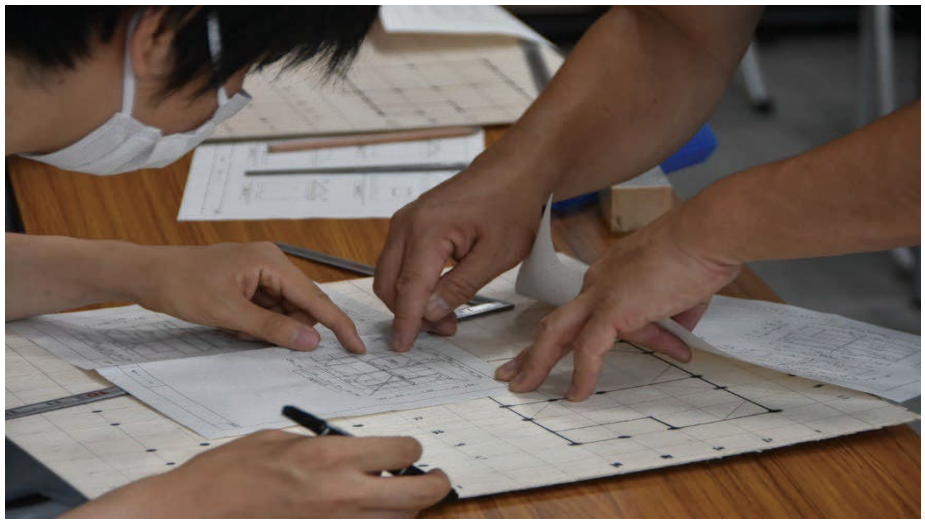
①出席率の維持
受講生が就業者なため、繁忙期には本業を優先しやむなく欠席する例があり、より受講し易くするための対策が必要。

②リスク管理
コロナ禍で講習が中止になる、ウッドショックで建築材が高騰し、講習の規模を縮小せざるを得ない、大雪での通学困難など、外的リスクに実効的な対策が必要。

令和3年度　一棟司塾　（(一社)東北建設技能協会）【育成】



（図面作成
　建築する木造平屋家屋の平面図・立面図を作成）



（手板書き
　平面・立面図を手板に書き起こす）



（土台墨付け
　木材の刻みを入れる箇所に墨で印を付ける）



（桁／梁　墨付け
　同じく、柱・屋根となる木材にも墨で印を付ける）

令和3年度　一棟司塾　（(一社)東北建設技能協会）【育成】



（小型移動式クレーン　操作
安全な操作方法を学び、建築材の積み下ろしを行う）



（小型車両系　運転
同じく、土砂の掘削、整地、破砕の練習をする）



（土台刻み
電動工具の安全で効率的な扱い方を学ぶ）



（土台敷き
刻み終わった木材を組み立て、土台部分を作る）

令和3年度　一棟司塾(（一社）東北建設技能協会）　【育成】



（土台敷き
　土台の寸法、水平、直角など精度を確認、補正する）



（座学　講話
　大学教授から木材の概論と最新の研究について学ぶ）



（足場組立て
　仮設足場の組み立てを行う）



（桁／梁組立て
　土台の上に、柱を立て、桁・梁を組む）

令和3年度　一棟司塾(（一社）東北建設技能協会）　【育成】



（小屋組み
垂木・棟など屋根部分を組み立てる）



（測量実習
測量器での、距離・高さ・角度の測り方を学ぶ）





（ドローン実習
ドローンの飛行に関する法的規制、
基本的な操縦方を学ぶ）

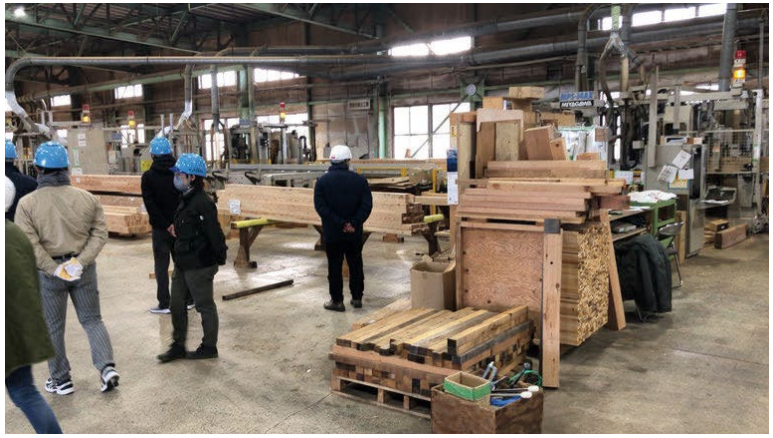
令和3年度　一棟司塾(（一社）東北建設技能協会）　【育成・確保】



（山林見学
　林業の概要、樹木の生育、伐採方法の説明を受ける）



（山林見学
　重機による間伐、剥皮、切断、運搬を見学する）



（製材所見学
　原木の集積、乾燥、切断、加工　など一連の作業を見学）

令和3年度　一棟司塾　（(一社)東北建設技能協会）【育成】



（上棟式
伝統的な木造大工職人の文化、慣習を体験する）



（壁・天井　下地
壁、天井材の張りつけを行う）



（内部造作　ボード張り、下地処理
石膏ボードを張り、パテ塗りの実技を学ぶ



（左官仕上げ
壁に左官仕上げ材を塗る）

令和3年度　一棟司塾（(一社)東北建設技能協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**宮城県（仙台市、岩沼市）（全2ヵ所）**	
事業期間	令和3年8月30日～令和4年1月24日（**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：20名（男性17名、女性3名）**
受講者属性	種別	**学生：20名**
	年齢構成	20歳代：**20名**　50歳代：**0名** 30歳代：**0名**　60歳～：**0名** 40歳代：**0名**
座学・実技研修	座学	**0回**
	実技	**9回（仙台会場：5回、岩沼会場：4回）**
	計	**9回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

建築に関する基礎知識は有るが、実際の現場経験が無い学生を対象に、即戦力となるような実技講習を実施。

①東北工業大学建築学部
学生を対象にリノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能（主に、壁張り、床板張り、加工仕上）を習得する。

② 東北電子専門学校建築科
学生を対象に、大工技能検定3級の実技部分に相当する技能（桁・梁・束・棟木及び垂木・隅木の加工組立）を習得する。

③見学会　（[育成]と合同で行う）
石巻市の百年企業の協力を得て、山林での材木伐採・運搬から、工場での製材・プレカットまで、天然木が建築材になるまでの全工程を見学する。林業・製材業・加工・流通など、現場で具体的な業務・作業の内容を見聞きし、建築業界に就く前の意識付けとする。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

- リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能、主に、壁張り、床板張り、加工仕上を習得し、効率的に作業するためのプランを考えることができるようになった。
- 大工技能検定3級の実技部分に相当する技能を、概ね習得し、桁・梁・束・棟木など木造家屋の構造材を加工・組み立てることが出来るようになった。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○講習内容の精選
講習回数が少ないため、より高い学習効果を得るためには、受講者の能力や適性をみて、講習内容を精選する必要がある。
（今回は、受講者が建築系の学生だったため、座学を割愛することができた。）

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善

令和4年3月8日

日本の伝統的大工塾

令和3年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：6名（男性4名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：4名（見習いを含む）** **建築士：2名**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**2名** 20-24歳：**0名**　40歳代：**4名** 25-29歳：**0名**
座学・実技研修	座学	**2回**
	実技	**20回**
	計	**22回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

市内市内・県内で減少傾向となっている若手大工従事者の手確保と技術向上のため、鶴岡市内に残る伝統構法を講師から学ぶ実技主体の大工塾を開催。

○初級：伝統構法の仕口課題製作に取り組み、仕口の造りを実技を通して学びながら、伏図として軸組構成がどうなるか想像できる能力を養うように取り組む。

○上級：2×3間の軸組課題を継続実技。その後、更に3×5間の平屋課題に取り組みながら、軸組構成だけでなく、造作下地、板倉などにも取り組み、技能向上を図る。

○座学：実技課題について図面を通してイメージをつけながら、仕口の仕組みや力の伝え方、作業を進めるに気を付けなければいけない点を学ぶ。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○各自目標を立てて意識しながら今年度の講座受講を行い、一定の成長変化が見られた。
上級：墨付け、刻みの強化（特に光付）
初級：図面からの仕口の納まり、刻み作業の段取りのイメージ力UP

○課題に取り組みながら、日々の通常業務でも感じる点が増え、興味関心の範囲が広がっている。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○新規若手塾生の確保
働き方改革等から技能習得に十分な時間を割くことが難しいことから新規確保の方法を検討する必要がある。

○コロナ禍での講座開講
コロナによる講座開催の延期、副塾長の逝去、塾生の体調不良によるリタイアがあり、受講者・回数の減があったのが残念な点。

令和3年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【育成】

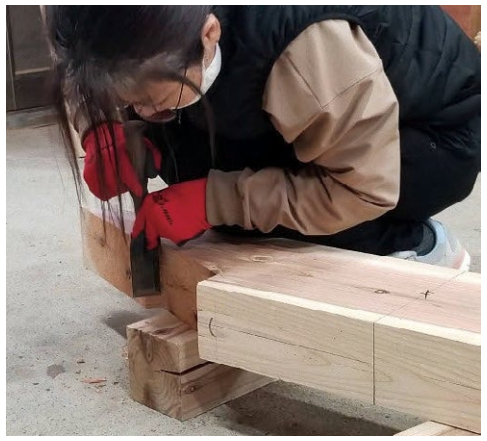










令和3年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和4年1月12日～令和4年1月14日（**3日間**）	
受講者数	実数	**確保：20名（男性19名、女性1名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：19名** **その他（設計事務所）：1名**
	年齢構成	
座学・実技研修	座学	**2回**
	計	**2回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

改正担い手三法、建設業の働き方改革など、時代変化に臨機応変に適応しながら人材確保できるノウハウを事業者が習得できる機会として開催した。

◎社会保険勉強会：中小工務店向け

（上記の他に、一人親方向けの社会保険勉強会、施工体制台帳や施工体系図の記載方法・確認方法についての研修会も予定していたが、いずれもコロナ禍の影響等から中止となった。）

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○福利厚生関係のより詳しい算出方法など、現場実務に近い内容の研修を強く求めている感想が多かった。

○建設業のこれからの働き方改革と人材確保の現状のズレ、意識自体のズレについても感想がみられ、来年度の研修内容に反映できるよう検討したい。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○事務実務レベルの研修、事業者に対する研修、一人親方向け研修など立場が違うパターンに合わせた内容で研修内容を検討したい。

○最終的な目標（若手の人材確保）に着地できる意識改革が行えるよう対応していきたい。

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

働き方改革取組
『雇用環境改善－採用・職場環境・職場定着率』
及び『大工技能者における規矩術研修』

令和4年3月8日

一般社団法人 福島県工務店協会

令和3年度　働き方改革取組『雇用環境改善−就業規則・労務管理』及び『大工技能者における規矩術研修』
（（一社）福島県工務店協会）　【育成】

1−1. 全体概要【育成】

実施地域	**福島県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：8名（男性8名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：8名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**4名**　30歳代：**1名** 20-24歳：**1名**　40歳代：**0名** 25-29歳：**2名**
座学・実技研修	座学	**1回（福島会場：1回）**
	実技	**15回（福島会場：15回）**
	計	**16回**

1−2. 研修活動等の概要【育成】

○（新人・中堅技能者）県内1カ所（福島市）
・展開図を起こしそれに沿って墨付けを行い、木ごしらえや刻み作業をし木材加工の基礎学ぶことで、大工としての基本技能の向上を図る。

○コミュニケーション講習　1回
・年齢が離れた先輩大工と自分たちの考え方の違いを学ぶことでコミュニケーション能力の向上を図る。

○大工技能講習　15回
・道具の使用方法と手入れや刃物の研ぎ方等の基礎
・墨付け、刻み、加工、組立等の規矩術
・墨付け加工技術の技術指導
・差し金の基本　・展開図演習
・屋根の墨付け等　・材料の木ごしらえ
・総括演習

1−3. 事業の効果・成果等【育成】

○展開図を自ら作成し墨付けすることで理解が深まり図面を読み取る早さが向上した。
○木ごしらえや刻み作業を行うことで木材の性質を理解し、カンナがけやノミ加工などの作業が上達した。
○作業前後に道具の確認・調整・手入れが身についた。
○加工時の安全姿勢が身に付いた。
全体的に基本技能の向上が見られ、また大工の魅力に改めて気付いた者も多くおり、現場加工の考え方が身についた。

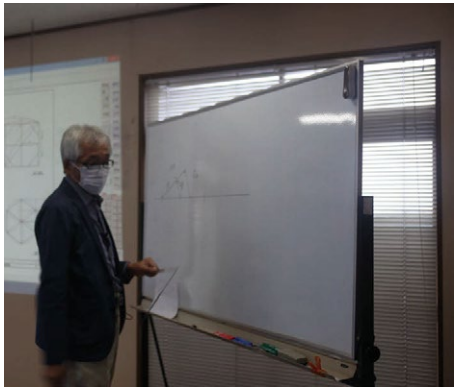
1−4. 今後の課題・改善点【育成】

○受講者の間でもレベル差があり、展開図においては全体で一緒に行ったため、慣れている人は待つ時間ができてしまうため、次年度は要領よく行えるように改善をしたい。

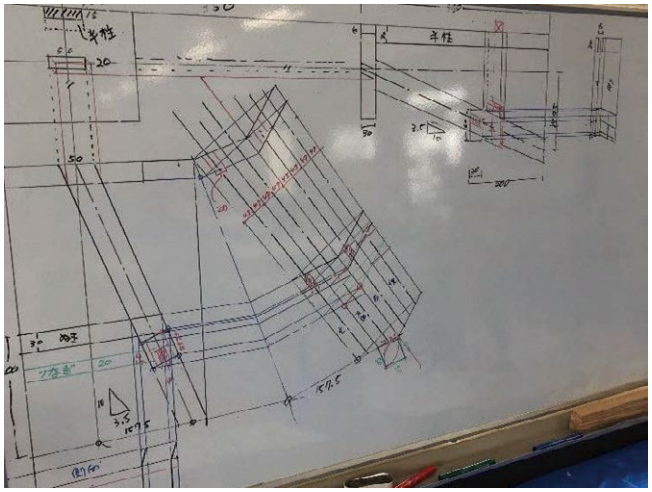
○新型コロナウイスルの影響もあり、受講生の参加人数減少や途中で会社の都合でこれなくなる受講生もいたので、次年度も安心して取組がおこえるようにカリキュラムの見直しも含めて対策を検討したい。

令和3年度　働き方改革取組『雇用環境改善−就業規則・労務管理』及び『大工技能者における規矩術研修』
（(一社)福島県工務店協会）　【育成】










令和3年度　働き方改革取組『雇用環境改善−就業規則・労務管理』及び『大工技能者における規矩術研修』
（（一社）福島県工務店協会）　【確保】

2−1. 全体概要【確保】

実施地域	**福島県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：28名（男性23名、女性5名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：25名** **その他（建材店）：3名**
	年齢構成	20歳代：**0名**　50歳代：**5名** 30歳代：**0名**　60歳～：**2名** 40歳代：**21名**
座学・実技研修	座学	**2回（郡山会場：1回、いわき会場：1回）**
	実技	**0回**
	計	**2回**

2−2. 研修活動等の概要【確保】

○（経営・管理者・部門担当者）
当組合会員や県内工務店等が置かれている労務環境の現状を認識し、経営者・管理者が職場環境改善を学ぶ。

○【座学】
（働き方改革：経営者向け）県内2か所(いわき市・郡山市)2回

○職場環境改善研修会
働き方改革
・就業規則作りを学ぶ
・建設現場の労務管理手法を学ぶ
雇用と請負の違い、時間外労働の上限規制への対応、働き方改革関連法案取り組みのステップ、建設現場の労務管理ポイント、建設業の業態を踏まえた就業規則づくりのポイント

2−3. 事業の効果・成果等【確保】

○法令遵守等の職業倫理が求められる現場等において、休日返上や残業を余儀なくされ、賃金体系の不透明さや社会保険、労働保険等の雇用環境に将来性を見いだせない若年技能士の離職者が増加している現状を再度認識させることができた。
○昔は、精神論で働いていたが、今はそういう時代ではなくきちんとした規則を整備することが重要だとわかった。働き方改革は、建設業は関係ないと思っていたが、一番劣悪な環境で働かせいたのではと気付き、改善に取り組むという意見もあった。

2−4. 今後の課題・改善点【確保】

○大工等の正社員化を図っている事業者も増えているが、きちんとした給与・就業規則が整備されているところはわずかである。このことからもわかるように、建設業自体の問題点は明確で、過去の働き方にとらわれているので、問題点を理解させ改善することが必要であり、それが大工等の地位向上に繋がり、新規入職者につながることを理解させることが重要である。

令和3年度　働き方改革取組『雇用環境改善−就業規則・労務管理』及び『大工技能者における規矩術研修』
（(一社)福島県工務店協会）　【確保】









大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

社員大工への大工育成プログラム

令和4年3月8日

一般社団法人 東京大工塾

令和3年度　社員大工への大工育成プログラム((一社) 東京大工塾)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**東京都・埼玉県(全2ヵ所)**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年1月31日(**約9ヵ月**)	
受講者数	実数	**育成:5名(男性4名、女性1名)**
受講者属性	種別	**社員大工:5名(見習いを含む)**
	年齢構成	20歳未満:**3名**　20-24歳:**2名**
OJT	OJT指導	**144日/名(工務店の各現場にて8H/日)**
	指導内容	安全衛生、道具の使用と手入れ 作業工程、作業方法　等

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○当会に所属する工務店が大工を社員として雇用。

○入塾生5名のOJT指導については、当会と工務店の間で「OJT指導契約」を締結。

○当会と工務店で選定した指導者による指導を実施。
現代の若者にマッチした指導方法や
安全衛生、道具の種類と使用方法、作業工程の重点
教育内容を共有し、指導内容にバラつきのない教育を実施。

○職業能力評価シートを用いて習熟度の確認を行う。
評価シートにおける指導者評価点数60点を1月末時点での目標値とする。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○受講者の大工技能能力の向上
今年度より「職業能力評価シート」による習熟度評価を実施。
受講、指導、雇用の3者間で習熟度の視覚化及び確認が出来た。

○習熟度目標としていた60点を受講者全員が達成。
「職業能力評価シート」の活用により、今後の目標値や指導内容の設定もしやすくなった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○指導を初めて行う者が出てきた場合でも、均一な質の指導が行えるよう「指導マニュアル」作成の必要性がある。
(来期作成を検討)

○職業能力評価シートの評価項目には、CCUSの能力評価基準(保有資格や就業日数等)を参考に項目を追加し、技能以外の評価指標も複数を設ける必要がある。

令和3年度　社員大工への大工育成プログラム(（一社）東京大工塾)【育成】


造作材加工指導


ボード施工


下地受け施工指導


土台敷き指導

令和3年度　社員大工への大工育成プログラム((一社）東京大工塾）【育成】


土台敷き指導


上棟作業


胴縁施工指導


袖壁施工

令和3年度　社員大工への大工育成プログラム(（一社）東京大工塾)【育成】


墨付け手刻み指導


墨付け手刻み実習


ボード施工指導


ボード加工指導

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」

令和４年３月８日

一般社団法人 にいがた木造建築協会

令和3年度　新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」（（一社）にいがた木造建築協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**新潟県（燕市）**	
事業期間	令和3年6月1日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：16名（男性16名）**
受講者属性	種別	**大工：16名（見習いを含む）**
	年齢構成	20-24歳：**4名**　30歳代：**2名** 25-29歳：**3名**　40歳以上：**7名**
座学・実技研修	オリエンテーション	**1回（会場・西蒲原高等職業訓練校：1回）**
	座学	**2回（会場・西蒲原高等職業訓練校：2回）**
	実技	**6回（会場・西蒲原高等職業訓練校：6回）**
	計	**9回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○座学：「棒隅木」基本規矩術講習

伝統的木構造「棒隅木」を課題と致しました。
基本である勾弧弦から解説、棒隅木の考え方、墨付け手法、展開図の書き方、寸法の出し方等の解説。合わせて取付く桁、母屋、垂木、破風板などの部材に関しても解説をし、棒隅木小屋組における全体的な基本規矩術の講習を実施。

○実技：「丸太小屋組」実践規矩術講習

伝統的「丸太小屋組」木構造を課題とし、丸太梁の考え方から、墨付け、刻み・加工　又、丸太梁に取付く桁、梁、母屋、垂木、柱、小屋束、火打ち、投げ掛け、隅木など丸太小屋組の完成形にての墨付けから組立てまでの実践講習を実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○座学：「棒隅木」基本規矩術講習

伝統的木構造の「棒隅木」を課題とし、棒隅木の解読、解説　又、棒隅木に　取付く各部材も合わせての基本規矩術講習により、知識を習得することができた。この知識は現場作業で十分に活用できる。

○実技：「丸太小屋組」実践規矩術講習

昨今、機械加工が主流となる中、伝統的木構造である「丸太小屋組」を　課題とすることにより、伝統的木構造の伝承に繋げることができた。丸太梁の墨付けから刻み、加工、組立まで。丸太小屋組の完成形での講習により技能・技術の習得ができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

・大工経験年数により、講習内容の難易度等の配慮が難しい。
・若手大工職人に限らず、自らのスキルアップに繋げたい大工職人さんがいる為受講生の年齢に関しての制限をなくし幅広く募集を募りたい。
・受講生の出席率がまばらで、受講依頼に苦慮をした。
・単年度計画での育成事業ではあるが、受講生にとっては非常に有意義な講習の為、継続的な講習会の開催依頼の意見が多数ありました。協会としても地元の大工職人さん方の為に尽力したい。
・基本的には若手大工職人さんへの育成事業ではあるが、講習内容の難易度　を上げた課題にも取り組んでいきたい。（受講生からの希望もあり）

令和3年度　新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」
（（一社）にいがた木造建築協会）【育成】

口座学:「棒隅木」基本規矩術講習





口実技:「丸太小屋組」実践規矩術講習





令和3年度　新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」
（（一社）にいがた木造建築協会）【育成】












令和3年度　新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」
（（一社）にいがた木造建築協会）【育成】











大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

いしかわの大工技能者等育成研修

令和4年3月8日

一般社団法人 石川県木造住宅協会

令和3年度　いしかわの大工技能者等育成研修(（一社）石川県木造住宅協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**石川県**	
事業期間	令和3年5月21日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：12名（男性12名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：12名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**2名**　30歳代：**3名** 20-24歳：**2名**　40歳代：**0名** 25-29歳：**5名**
座学・実技研修	座学	**2回（金沢：2回）**
	実技	**3回（かほく会場：1回、金沢会場：2回）**
	計	**5回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

＜実技＞
①伝統工法で造る丸太組の建築現場の見学
・伝統工法の大工工事作業の見学
・建築現場での留意点、建て方と木工事について、大工の心得などの説明
②大工工事の基礎講座（2回）
・県産材の特徴、木材の性質の見極め方、墨付けの指導
・隅木の組み立てにかかる作業（矩計図、刻み、電動のこぎり、グラインダーの使い方）、丸太の仕口、継手の加工の指導

＜座学＞
①木造住宅供給における建築関係法規（集団規定・単体規定）について説明
②良質な木造住宅供給における住宅性能表示制度の概要等について説明

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○主にプレカット材を使っている若手大工がほとんどだったので、日頃の作業では体験できなかった隅木の組み立て作業から、墨付けや刻み、継手、仕口などの基礎的技術を身につけることが出来た。
○大工仕事の中では知る機会がなかった建築法規や性能表示制度を学ぶことにより、作業の正確さや良質な住宅を建てることの意義を知ることが出来た。考査の結果、70点以上の合格者が8割となっていることから、知識習得の成果が確認できる。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○大工経験年数によって実技に差が出てしまい、時間内に完成させることが出来ない受講者がいたので、同じ作業を行うのではなく、経験年数ごとに分けて作業目標を立てた方がよいと感じた。
○大工特有なのか、仕事の都合で急な欠席がたびたびあった。特に座学については欠席者が多かったので、研修に出す側（親方など）に、若手大工に学ばせてやりたいとの意識をもってもらうように促すことが必要。

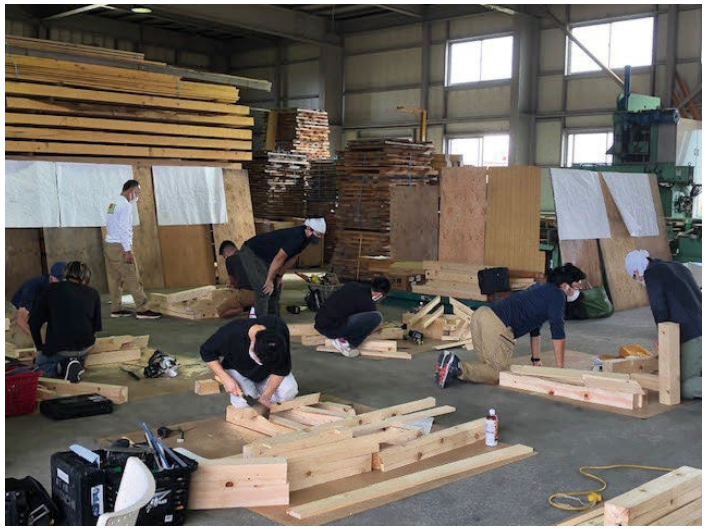
令和3年度　いしかわの大工技能者等育成研修(（一社）石川県木造住宅協会）【育成】













大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

静岡大工育成PROJECT2021

令和4年3月8日

一般社団法人 富士山木造住宅協会

令和3年度　静岡大工育成PROJECT2021((一社)富士山木造住宅協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**静岡県(東部地区・西部地区)(全2地区)**	
事業期間	令和3年7月6日～令和4年1月27日(**約7ヵ月**)	
受講者数	実数	**育成:24名(男性22名、女性2名)**
受講者属性	種別	**大工:20名(見習いを含む)** **現場監督:4名**
	年齢構成	20歳未満:**3名**　30歳代:**6名** 20-24歳:**10名**　40歳代:**4名** 25-29歳:**1名**
座学・実技研修	座学	**5回(東部会場:2回、西部会場:2回)** **(合同研修1回)**
	実技	**25回** **(東部会場:13回、西部会場:12回)**
	計	**30回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

富士山木造住宅協会及び静岡木の家ネットワークと連携して進める静岡大工育成を進めることにより、事業間の相乗的な効果が発揮され、多岐多様な形での効果が発現し、静岡県全体の新人大工育成の体制整備などの実現につなげる。
木造技能者育成検討委員会が設定している「レベル1」を目標とする木造軸組み在来工法を対象に下記の研修を開催。

◇実技
東部会場(富士市)
1年生【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工及び建て方】
2年生【廻り階段の墨付け、手刻み加工及び階段の設置】
西部会場(磐田市)
1年生【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工及び建て方】
2・3年生【3坪木造住宅の墨付け、手刻み加工及び建て方】
◇座学(東部西部会場共通)
【木造住宅の構造と架構と力の流れ、建築基準法・関連法令、フラット35 木造住宅の標準仕様書】

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

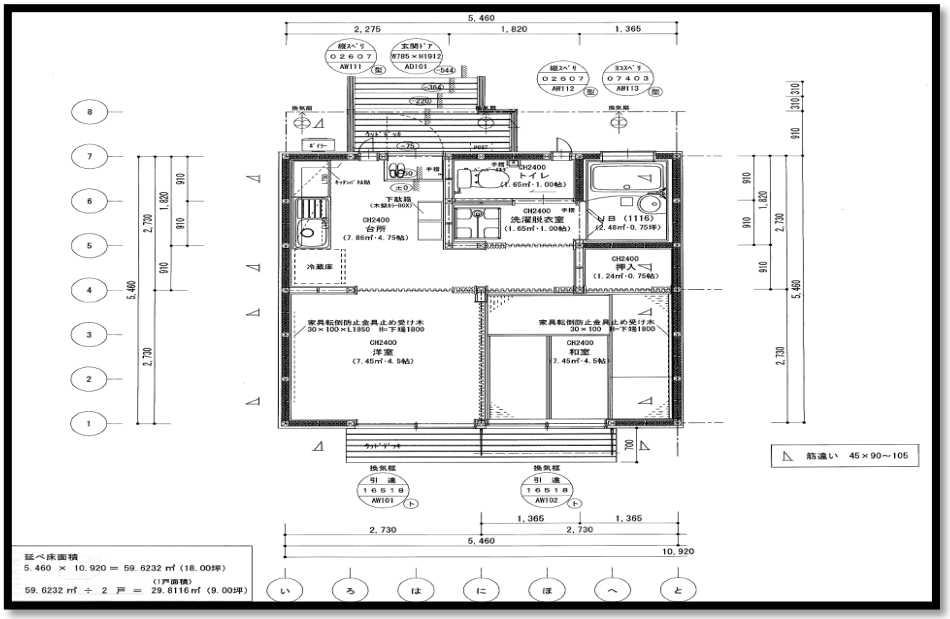
静岡県のJBN連携団体の富士山木造住宅協会と静岡木の家ネットワークが連携することにより、3年間で63名の新人大工を育成することができました。新人大工は、研修会の受講により、①大工の心得②施工法や寸法の裏づけの習得③機械化された作業の中で失われつつある墨付け・手刻み等の修養④幅広い技術の習得等の成果が得られました。

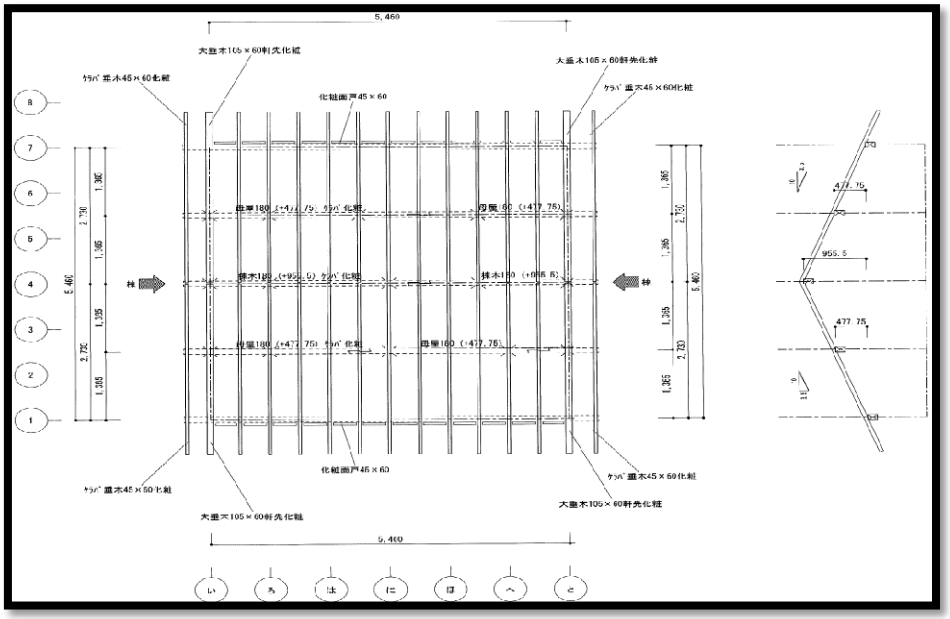
それにより、静岡県内の新人大工育成の体制整備などの実現につながることができました。

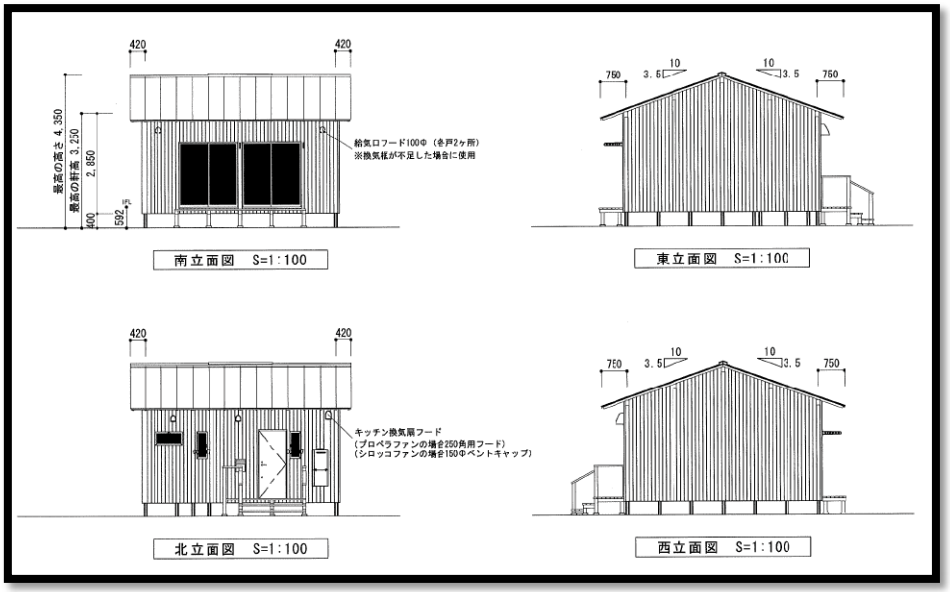
1-4. 今後の課題・改善点【育成】

研修生の中でも技能能力の差があるので、研修会半ば以降個別カリキュラムも必要とだと思いました。また、大工仕事や職人技術だけでなく、PCスキルまで求められるようになっているのが大工の今の現状なので、PC座学も取り入れていきたいと思います。また、3年間育成活動をしてきましたが、本取組がまだまだ、静岡県内の新人大工に周知できていないことから、より多く関係団体及び行政等と連携して募集をしていきたいと思います。

令和3年度　静岡大工育成PROJECT2021((一社)富士山木造住宅協会)【育成】









令和3年度　静岡大工育成PROJECT2021((一社)富士山木造住宅協会)【育成】













令和3年度　静岡大工育成PROJECT2021((一社)富士山木造住宅協会)【育成】



中日新聞　2022年(令和4年)1月12日

校庭でDIY

トントン ギコギコ 建築体験



浜松大平台高校（浜松市西区）の芸術・デザイン系列で学ぶ二年生六人が、プロの大工の手ほどきで、校内に小屋を建設している。十一日は雨天のため屋外の作業が変更になったが、木材の切断や組み立て作業を体験した。二十五日までに内装を仕上げて完成させる。（広瀬美咲）

大工さんの指導受け「行程多いけど楽しい」

浜松大平台高生

県内で新人・若手大工を育てる「静岡大工育成プロジェクト」と同校が連携した授業の一環。高校生や若手大工に、プロの仕事について知ってもらい、ものづくりの楽しさを体験してもらう試み。生徒と県内の若手大工四人が、昨年十二月から小屋作りに取り組んでいる。

小屋は木造平屋、延べ床面積約十二平方㍍、高さ二・七㍍で、校内のグラウンド隅に建設。三回に分けて作業し、これまでに土台づくりから梁の組み立てまでが進んでいる。

この日生徒たちは、村木建築工房（同市東区）の村木幹直さん（よし）から指導を受けながら、のこぎりを使って壁や天井に使う木材の切断作業などに取り組んだ。

生徒の榎谷芽維さんと千葉紗有里さんは「思ったより工程が多くて大変だけど、楽しいです」と声を弾ませた。インテリア関係の仕事に興味を持つ高井良早記さんは「なかなかできない体験で、すごいなと思う」と話した。



学校の敷地内に建設中の小屋

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域ネットワークによる
大工技能者確保・育成事業

令和４年３月８日

愛知県建設団体協議会

令和3年度　地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**愛知県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：93名（男性93名）**
受講者属性	種別	**大工（見習いを含む）他：93名**
	年齢構成	**大工育成事業及び継続研修** **20歳未満：1名　30歳代：1名** **20-24歳：3名　40歳代以上：7名** **25-29歳：1名** **オンライン研修は不明**
座学・実技研修	座学	**5回（愛知県：4回、長野県：1回）**
	実技	**18回（愛知県：14回と4回）**
	計	**23回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○　CCUSレベル2に満たない初級大工の育成
プレカット構造材を用いた木造軸組住宅の大工技能の基礎を教える育成プログラムを実施。座学・実技研修を124時間行い、座学では労働安全衛生法や設計、実技では建て方実習として住宅施工を全般に行い、土台、足場組立て、上棟、屋根施工、省エネ基準の外壁施工や内装施工など施工を行った。

○　CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた研修の実施
CCUSにおいてレベル2以上相当の技能者に対し、技能習得の短期の実技研修実施。高度な技術習得として、規矩術の技術習得と屋根の軒先「隅木と扇垂木」加工・組立製作を32時間行う。現寸図の作成から、各部材の墨付け、反り加工を含めた加工を行ない、製作課題（横約3m×縦2m）を参加者全員で行い、疑問点を講師及び参加者全体で共有、解決しながら完成させた。技術向上意欲の継続と、初級大工育成に向けた指導者の確保に向けて実施した。

○　オンライン研修会を実施
大工育成の一環として、大工技能者の現場マナーを含め・住宅の現況調査手順や仕事に対する環境、意欲を向上させるために、オンライン講習を実施した。大工育成を踏まえ、目指す管理職及び棟梁を育成するには、様々な現場対応や雇用管理、法令などの知識も重要であるため、施工管理まで担う人材育成を行った。

○　育成事業検討会の開催（3回）
新規入職者の育成プログラム（育成カリキュラム）の構築と実証を行い地域性を考慮した育成カリキュラムの検討を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○　CCUSレベル2に満たない初級大工の育成
4名（5名開始で1名退社）に対して実施し、目標とする次年度における、CCUSレベル2相当の技能取得が全員見込める

○　CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた研修
受講者9名に対して実施、全員が講義内容に対して充実したものとして評価

○　オンライン研修
大工技能者の育成として工務店が求める大工の能力向上を図るため基本的な現場マナー・既存建物の現況調査手順 他を実施 80名が受講

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○　受講生（新規入職者を含む）の確保
○　既存住宅のリフォーム技能の取得に向けた研修の実施
○　改正省エネ法に対応した施工技術の取得

令和3年度 地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【育成・確保】

CCUSレベル2に満たない初級大工の育成





CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた継続研修の実施





地域ネットワークによる委員会活動





令和3年度　地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**愛知県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
委員数	実数	**確保委員：4名（男性4名）**
委員属性	種別	**大工・工務店関係者：4名**
委員会	確保委員会	**3回（名古屋会場：3回）**
	計	**3回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

地域の住宅産業団体（JBN・全建総連・住活協）の有志が連携した地域ネットワークを構築し、地域ネットワーク委員会を構築し、手空き技能者の活用による仕事の平準化と新規入職者の確保・育成の有用性を検証し実証に向けた取組みを行う

○　確保WGの実施

新規入職者の受け入れ態勢の整備（就業規則等雇用環境の整備）、大工職人の仕事の平準化等の雇用の安定に向けた取組み、公共機関・学校等との関係性の強化を目指し新規入職者の確保に向けた取組みを行う。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

確保に係る委員会を計3回程度開催し、人材を確保できる環境整備に向けて前年度に整備したモデルとなる就業規則等の活用し「地域ネットワーク」内にて段階的な運用として公的機関や教育機関とへの働きかけを行う方法の検討や手空き技能者の活用等による仕事の平準化に向けた実証を行い運用の検討を行った。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○　新規入職者の確保に向けた公共機関・学校等との関係性の強化には継続的な取組みが必要で時間を有する

→　計画的な交流と取組み内容の広報活動の実施

○　仕事の平準化に向けた取組みに関する規模の必要性

→　必要となる人材の協力の要請

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

ひむか大工塾

令和4年3月8日

一般社団法人 宮崎県建築業協会

令和3年度　ひむか大工塾（(一社)宮崎県建築業協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**宮崎県**	
事業期間	令和3年5月14日～令和4年2月10日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：11名（男性10名、女性1名）**
受講者属性	種別	**大工：11名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**1名**　30歳代：**2名** 20-24 歳：**4名**　40歳代以上：**2名** 25-29 歳：**2名**
座学・実技研修	座学	**1回（宮崎高等技術専門校：1回）**
	実技	**12回（宮崎高等技術専門校：12回）**
	計	**13回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

〇住宅建設や既存住宅のリフォームを推進するため、規矩術を理解し増改築等の現場で活用できる人材の育成を目的として、規矩術に重点を置いて以下のとおり若手大工の育成に取組んだ。
〇建築大工技能検定2級相当の技能レベルに到達していない受講者と、2級相当の技能レベルに到達している受講者を対象に、さしがねの使用法、規矩術の勾配図、棒隅木・振れ隅木、四方転び、現寸図作成及び墨付け・加工演習を実施した。
〇 同時並行して、新人大工を対象に道具の知識・管理、構造材の加工演習（継手・仕口の加工）を実施した。
〇また、社会人・職業人としての自覚やマナー、安全意識を高める目的で、職業人基礎講習と労働安全衛生作業法（座学）を実施した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

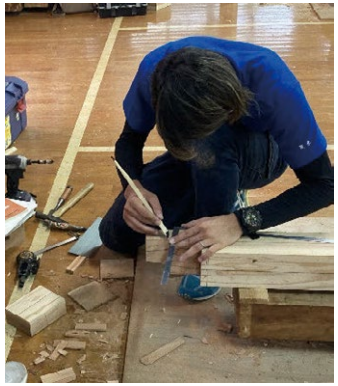
〇課題図面の寸法通りに工作・組立てられているか実技試験を実施、2級・1級実技相当の課題図面の寸法に対し、ほぼ全員が許容される誤差の範囲内で工作・組立てることができた。
〇継手・仕口の墨付け・加工課題に対し、建築現場で使用できる程度の精度を得ることができた。
〇また、社会人・職業人としての自覚やマナー、安全意識を高めることができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

〇魅力ある職場づくり
将来の担い手である新人大工の減少傾向に歯止めをかけるための賃金・休日・休暇等労働条件の整備、キャリア・パスの構築が不十分であり、社員化を加速させる必要がある。
〇講師の育成
規矩術に関して高い指導技術を持つ認定職業訓練校講師の指導法を学ぶことができた。一方で、当協会が地域工務店向けに行う訓練プログラムの定着を図るためには、さらに指導法のレベルを上げる必要があることを再確認した。
〇受講者の確保
本事業の取組を一層浸透させ、担い手育成の機運を高める必要がある。

令和3年度　ひむか大工塾（(一社)宮崎県建築業協会）【育成】












大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

令和３年度実施概要

令和4年3月8日

国土交通省

住宅局住宅生産課木造住宅振興室

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）

○　１８団体(団体主導型７団体、地域連携型11団体)が行う大工技能者の技能向上のための研修活動や大工技能者が能力・経験に応じた処遇を受けられる環境整備の取組等に対する支援を実施。
（実施結果：研修1,450回（座学737回＋実技713回）、育成人数1,367人）。

【団体主導型】

No.	事業者	事業名	取組分類※1		実施地域	研修回数		育成人数
			育成	確保		座学	実技	
1	全国建設労働組合総連合	建築大工の担い手確保・育成支援事業	○	○	全国 (13地域)	87回	114回 （長期訓練・集中訓練） 35時間×53人 （長期訓練・分散訓練） 92回 （短期訓練）	68人 （長期訓練） 35人 （短期訓練）
2	（一社）JBN・全国工務店協会	地域の工務店を中心とした地域連携大工育成プログラムの構築と実証	○	○	全国 (13地域)	29回	140回	106人 （大工研修） 142人 （リフォーム研修）
3	（一財）住宅産業研修財団	大工志塾	○		全国 (7地域)	418回	10回 （全国合同） 168日×95人 （分散訓練）	95人
4	（一社）全国木造建設事業協会	災害時の応急仮設住宅等対応における大工技能者等の技術・技能向上研修会	○		全国 (16地域)	11回	7回	311人
5	（一社）全国住宅産業地域活性化協議会	地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業	○	○	全国 (11地域)	126回	148回	62人 （継続研修） 113人 （基礎研修）
6	（一社）全国古民家再生協会	伝統技術を活かした技術者育成・確保プログラム	○	○	全国 (10地域)	26回	70回	66人
7	（一社）日本ＣＬＴ協会	CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業	○		全国 (2地域)	2回	2回	27人 101人 （動画配信）
						小計699回	小計583回※2	小計1,126人

※１【育成】…大工技能者等を対象とした木造住宅の新築・リフォーム等に係る研修
　　【確保】…育成に付随して実施する将来世代の確保（処遇改善等）に向けた取組
※２ 分散訓練の日数は含めていない。

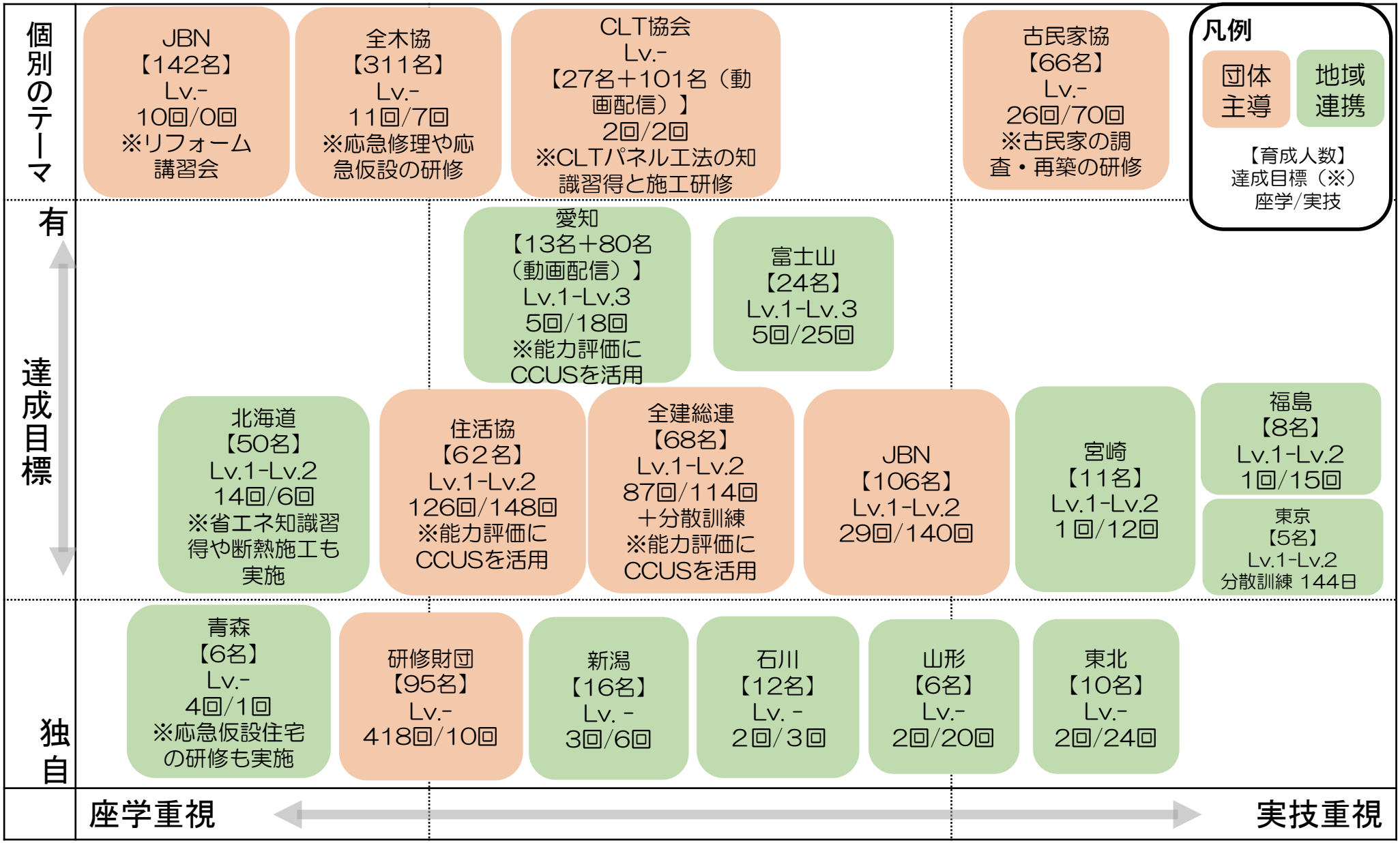
令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）

【地域連携型】

No.	事業者	事業名	取組分類※1		実施地域	研修回数		育成人数
			育成	確保		座学	実技	
1	（一社）北海道ビルダーズ協会	北海道の工務店ネットワークによる大工育成	○	○	北海道	14回	6回	50人
2	青森県優良住宅協会	青森大工技能者育成アカデミー 2021	○	-	青森県	4回	1回	6人
3	（一社）東北建設技能協会	被災地宮城における大工技能者等担い手確保・育成事業	○	○	宮城県	2回	24回	10人
4	日本の伝統的大工塾	地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善	○	○	山形県	2回	20回	6人
5	（一社）福島県工務店協会	働き方改革取組『雇用環境改善-採用・職場環境・職場定着率』及び『大工技能者における規矩術研修』	○	○	福島県	1回	15回	8人
6	（一社）東京大工塾	社員大工への大工育成プログラム	○		東京都	-	144日×5人（分散訓練）	5人
7	（一社）にいがた木造建築協会	新潟の地域に根ざす「丸太小屋組等実践講習」および「基本規矩術講習」	○		新潟県	2回	6回	16人
8	（一社）石川県木造住宅協会	いしかわの大工技能者等育成研修	○		石川県	2回	3回	12人
9	（一社）富士山木造住宅協会	静岡大工育成ＰＲＯＪＥＣＴ2021	○		静岡県	5回	25回	24人
10	愛知県建設団体協議会	地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業	○	○	愛知県	5回	18回	13人 80人（オンライン）
11	（一社）宮崎県建築業協会	ひむか大工塾	○		宮崎県	1回	12回	11人
						小計38回	小計130回※2	小計241人

※１ 【育成】…大工技能者等を対象とした木造住宅の新築・リフォーム等に係る研修
【確保】…育成に付随して実施する将来世代の確保（処遇改善等）に向けた取組
※２ 分散訓練の日数は含めていない。

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）



（※）達成目標は、平成27年度に業界内における統一的な大工技能者の職業能力に関する指標とすることを目的に作成された「大工技能者職業能力シート」を活用して達成目標を設定している場合のレベル（Lv.1～3）を示したもの。設定がない場合や独自設定の場合は、（Lv. -）とする。

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）

取組内容に対するコメント

○座学ないし実技に偏ることなく、知識と技能をバランス良く向上させることが重要。

○達成目標（レベル）を明確に設定することが望ましい。CCUSにおける建築大工技能者能力評価基準が制定されたことも踏まえ、CCUSを活用した能力評価（レベル2以上の判定を目指すなど）も検討されたい。

○リフォーム、応急仮設住宅、省エネ、CLT施工等の講習がみられた。
・リフォーム等を通じたストックの有効活用
・災害への備え
・2025年度の省エネ基準適合義務化
・中大規模建築物の木造化
など、時代とともに大工技能者に求められる技能が多様化。今後も大工技能者の技術力の底上げとなる取組が増えることに期待。

○成果報告会等を通じて取組の水平展開が図られ、より合理的かつ効果的な取組となることに期待したい（研修内容、カリキュラム、教材等の発展や共有化、対費用効果（育成単価）を意識した取組）。

100

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（確保の取組内容）

【団体主導型】

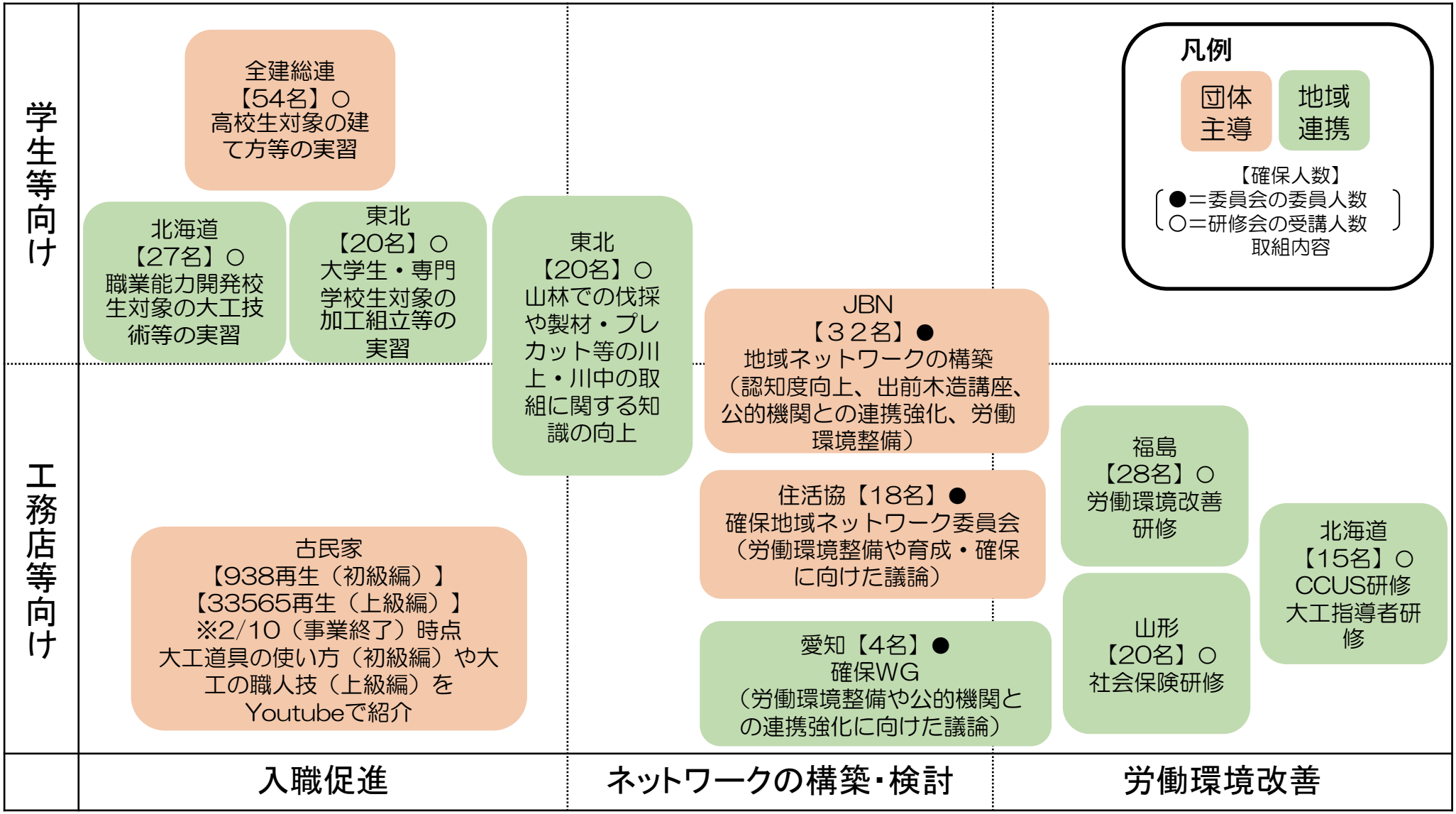
No	事業者	実施概要（確保の取組内容）
1	全国建設労働組合総連合	（1）高校生等を対象にしたキャリア教育 （工業高校等で建て方等の実習）
2	（一社）JBN・全国工務店協会	（1）地域ネットワークの一般市場における認知度の向上に向けた取組 （2）公共機関・教育機関との連携、教師・教員とのネットワークの構築、積極的なインターンシップの受入れ、出前木造講座の提案等 （3）工務店の労働環境整備の取組 （各種保険、就業規則、賃金規程等について協力体制の構築） （4）入職3年間の育成プログラムの検討と実施、入職者がコミュニケーションをとりやすい環境の提供 （5）雇用大工の仕事の平準化と人材不足への取組 （手空き大工の活用等グループ内の大工の業務状況の共有と活用に向けた検討と実証）
3	（一社）全国住宅産業地域活性化協議会	（1）確保委員会 （参加を検討している地域の代表者においての育成事業参加への課題、ハードルの抽出及び検討） （2）地域ネットワーク委員会 （工務店の大工の仕事の平準化や雇用と育成についてネットワークのあり方を議論。雇用条件、就業規則等について検討）
4	（一社）全国古民家再生協会	（1）YouTubeを活用した、大工職の認知度を向上させる取組 （大工道具の使い方（初級編）や大工の職人技（上級編）をYouTubeで紹介）

【地域連携型】

No	事業者	実施概要（確保の取組内容）
1	（一社）北海道ビルダーズ協会	（1）高校生等を対象にしたキャリア教育 （工務店の仕事内容の紹介や大工技術等の実習） （2）キャリアアップシステム研修会 （工務店経営者に対するCCUSについての研修） （3）指導者研修会 （指導者に対するスポーツコーチングメソッド、若年者との接し方や指導の仕方等の研修）
2	（一社）東北建設技能協会	（1）大学生等を対象にしたキャリア教育 （リノベーションや桁・梁・隅木等の加工組立実習） （2）山林での伐採や製材・プレカット等の川上・川中の取組に関する知識の向上
3	日本の伝統的大工塾	（1）中小工務店を対象にした社会保険に関する研修会 （社会保険加入の手続や保険料の算出方法等について）
4	（一社）福島県工務店協会	（1）工務店経営者等を対象にした労働環境改善研修会 （働き方改革関連法への対応、就業規則の整備、現場の労務管理等に関する研修）
5	愛知県建設団体協議会	（1）確保WGの実施 （新規入職者の受け入れ体制の整備（就業規則等）や大工の仕事の平準化等の工務店の労働環境整備の取組及び公共機関・学校等との関係性の強化を目指した議論）

101

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（確保の取組内容）



※確保の取組を行っていない団体

青森　新潟　石川　東京　富士山　宮崎　全木協　CLT協会　研修財団

令和３年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（確保の取組内容）

取組内容に対するコメント

○　学生を対象とした建て方等の実習の取組がみられた。入職促進の観点から、キャリア教育は重要。

○　大工道具の使い方や大工の職人技をYoutubeで紹介する取組がみられた。若年層が利用するデジタルコンテンツの利用等により、大工技能者の認知度向上や魅力を伝えることも重要。

103 ○　工務店経営者を対象にしたCCUS研修の取組がみられた。大工技能者のCCUS登録数は未だ低調であることを踏まえ、同様の取組が増えることに期待。

○　就業規則、賃金規程等の労働環境改善に関する取組がみられた。労働基準法時間外労働規制の建設業における適用等を踏まえ、工務店における雇用環境改善に関する取組は非常に重要。さらには、インボイス制度の導入や事業承継問題の顕在化などに対応するための取組にも期待。

○　大工技能者の減少や高齢化を踏まえ、将来世代の確保の取組（処遇改善含む）を積極的に取り組んで頂きたい。また、工務店における生産性向上（工程改善、システム導入、DX等）に関する取組も一層求められる。

令和３年度　国土交通省補助事業

木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業
（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）

「令和３年度　木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）　成果報告書」

発行・編集：一般社団法人木を活かす建築推進協議会
〒107-0052　東京都港区赤坂2-2-19　アドレスビル5F
URL　http://www.kiwoikasu.or.jp
協　　力：株式会社アルセッド建築研究所
発　行　日：令和4年3月

無断複製を禁ず